

## 第 12 章 カナダの国際教育

### 12-1 カナダの国際教育の歴史的変遷

カナダの国際教育を見ていく場合、大きく 4 つの時期に分けることができる。(1) 国際教育の萌芽期（～1970 年代中頃）(2) 国際教育の発展期（1970 年代中頃～80 年代後半）(3) 国際教育の停滞期（1990 年代）(4) 国際教育の新たな時代（2000 年以降）、である。以下、それぞれの時期における国際教育の状況を概観する。

#### (1) 国際教育の萌芽期（～1970 年代中頃）

カナダにおける国際教育の始まりは、CUSO（Canadian University Service Overseas、現 CUSO International）と呼ばれる組織や教会などを通じて途上国に派遣された若者たちが帰国後にその経験を何とかしてカナダ市民に伝えたいという熱意から国内で始めた開発教育活動にまで遡ることができる。CUSO とは、COV（Canadian Overseas Volunteers）や CVCS（Canadian Voluntary Commonwealth Service）など個々の大学によってすでに開始されていた小規模なボランティア派遣プログラムの調整の役割を担って、1961 年にモントリオールにあるマックギル大学（McGill University）に設置された非政府系の組織（NGO）である。その後、CYC（Company of Young Canadian）やラテンアメリカ・ワーキンググループ（Latin American Working Group）、オックスファム・カナダ（Oxfam Canada）など、途上国の開発支援を行う組織が 1960 年代半ばごろまでに次々と設立され、途上国の開発に従事する関係者の数も急増していった。

さらに、これと時期を同じくして開発教育を推進する NGO も設立され始めた。CCLC（Cross-Cultural Learner Center、1968 年）<sup>1</sup>、DEC（Development Education Center、1970 年）<sup>2</sup>、インター・パレス（Inter Pares、1975 年）<sup>3</sup>、VIDEA（Victoria International Development Education Association、1977 年）<sup>4</sup>などはその代表例で、こうした NGO はそれぞれの州における開発教育の推進センター及び学習センターとしての機能を果たすようになっていく。こうした状況のもと連邦政府も動き出す。1968 年には ODA 実施機関として、カナダ国際開発庁（Canadian International Development Agency: CIDA）を創設し<sup>5</sup>、開発教育へも積極的な支援を行っていった。主な支援形態は資金供与であり、開発教育 NGO へ多額の資金が供与された。

この時期に行われていた国際教育は、途上国の貧困や飢餓の現状を知識として伝えるということが中心であり、初期の頃は途上国から帰国した青年たちを講師として、また、70 年代には各州に設立された開発教育の推進センターや学習センターを媒介にして、途上国に興味関心のある人々を対象にしたアドホックな講義やセミナーという形式で行われていた。

さて、ここでカナダ国内における多文化主義と多文化主義教育についても触れておかななくてはならない。というのも、カナダは世界でも有数の文化的多様性をもった国だからである。この時期は、すでに触れた開発教育と同様、多文化主義教育においても萌芽期ということができる。これまで文化・経済の諸側面でアメリカの影響を強く受け、アメリカのカリキュラムや教材をそのまま使うことが多かった学校教育において、子どもたちのカナダに関する知識の欠如、カナダ人アイデンティティの喪失が深刻な問題として議論され始めたのである。そこで、連邦政府は二言語二文化主義王立審議会を立ち上げ（1963 年）、イギリス系とフランス系の二文化の尊重を掲げると共に、公用語法を制定し（1969 年）、英仏両言語を公用語とすることで対処

<sup>1</sup> オンタリオ州ロンドンにある（London, Ontario）

<sup>2</sup> オンタリオ州トロントにある（Toronto, Ontario）

<sup>3</sup> オンタリオ州オタワにある（Ottawa, Ontario）

<sup>4</sup> ブリティッシュ・コロンビア州ビクトリアにある（Victoria, British Columbia）

<sup>5</sup> 対外援助庁（External Aid Office: EAO）が 1960 年に外務省（Department of External Affairs）内に設立されたが、62 年には独立した別組織となり、その後 68 年の Financial Administration Act によって CIDA という組織に変更された。

しようとした。この意味するところは、すべてのカナダ人はイギリス系・フランス系両民族のいずれかに同化すべきということであり、この政策の下では独自文化を保持する民族集団への支援はなく、英仏語以外の言語の公での使用（例えば放送メディアなど）は厳しく禁止されることとなった。これに対して、増え続けるイギリス系及びフランス系以外の住民、すなわち、西インド諸島、中東、アジア、アフリカ諸国などからの移民集団の不満が急速に高まりを見せ、連邦政府は政策の見直しを迫られることとなった。1971年、当時政権を握っていた自由党のトルドー（Joseph Philippe Pierre Yves Elliott Trudeau）は「二言語的枠内での多文化主義政策」と題した演説を議会で行い、これによって世界初の多文化主義政策が採用されることとなったのである。翌年には早速、多文化主義担当大臣が任命され、各種プログラムを通じて多文化主義政策の実施と浸透が試みられることとなった。こうして、多文化主義カナダ諮問協議会（CCCM、1973年）<sup>6</sup>の設立をはじめとして、先住民への大幅な自治を認める法律の制定など、国内の様々な面で多文化主義への認識が拡大していった。

先に触れたように、カナダは州の自治権が強いことから、多文化主義における州の政策もそれぞれに特徴があり興味深い。英語系住民が多数を占めるオンタリオ州では、1970年にカナダ=多文化主義（Canada=Multiculturalism）、新カナダ人と学校（New Canadians and the Schools）という二つの会議が開催され、多文化主義を州の基本方針に採用する決定がなされている。そして、1972年にはオンタリオ州相続遺産（Heritage Ontario）会議にて、多文化主義の実現を目指し、州政府はあらゆる手段を用いて社会の調和に責任をもつべきであると勧告されている。さらに、1973年には多文化主義に関するオンタリオ諮問審議会（Ontario Advisory Council on Multiculturalism）が発足し、多文化問題に対応する教育政策が協議され、特に公用語の問題が優先的に取り組まれた。そして、1977年からは遺産言語プログラム（PELO）が導入され、小学校の通常授業以外の時間で英語・仏語以外の言語への指導に対し、州政府から補助金が支給されることになった。

一方、フランス系住民が大半を占めるケベック州では、1974年州公用語法が施行され、フランス語が同州の唯一の公用語となった他、1977年にはフランス語憲章が制定され、同州におけるフランス語化が徹底された。これによって、多くの英語系住民が周辺州へ移住したと言われている。ケベック州の政策は、いわばフランス語の習得を通じて住民をケベック社会（フランス系社会）へ融合させるというものであるが、連邦政府の基本方針である多文化主義政策も考慮して、他民族への配慮も多少伺うことができる。その代表例が遺産言語プログラムの実施であり、授業を行うことが可能な言語に対して、授業を成立させるために必要な人数が集まれば、学校はその言語の授業を昼休みか放課後に行うことができるというものである。

このように、同国の多文化主義教育はこの時期から連邦政府はじめ、各州において進展を見せ始めるが、この時期の多文化主義教育は、同教育に含まれる主要な4つの内容のうち、「文化的に異なる人々の教育」、「文化的複合性へ向けての教育」及び「二文化教育」という3つの増進が中心で、残りの一つである「文化的差異についての教育」が欠落した状況で進められていたと言われている。つまり、個別民族集団ごとに、その中で別個に、それぞれの文化の伝承と民族集団構成員の保護育成を行おうという意味合いが強かったということである。関口（1988）は、このような多文化主義を「個別的多文化主義」と呼び、その比重が「文化的差異についての教育」へ移った80年代の多文化主義教育（関口は「統一的多文化主義」と呼ぶ）と区別している<sup>7</sup>。

<sup>6</sup> CCCMは1983年にはカナダ多文化主義協議会（Canadian Multicultural Committee: CMC）へ改組された。

<sup>7</sup> 関口礼子「カナダ多文化主義教育の意義と展開」『カナダ多文化主義教育に関する学際的研究』東洋館出版社、1988、p.21 参照。多文化主義教育の主要な4つの内容；①文化的に異なる人々の教育、②文化的差異についての教育、③文化的複合性へ向けての教育、④二文化教育、はM. ギブソンによって提唱されたもので、関口はそれをもとにこの時期のカナダの多文化主義教育を再定義している。

## (2) 国際教育の発展期（1970年代中頃～80年代後半）

この時期、カナダ連邦政府はカナダ国際開発庁（Canadian International Development Agency: CIDA）を中心に、開発援助の量的な拡大と質的な転換を求めて次々に新しい政策を打ち出すと共に、NGO及び国際教育に対する支援を拡大していった。1975年にはわずか6億米ドル（およそ720億円）に過ぎなかった政府開発援助（Official Development Assistance: ODA）拠出額が、1989年には16億米ドル（およそ2,000億円）とほぼ3倍近くまで増えていることはその証拠である<sup>8</sup>。これによって、同国内に途上国に対して支援を行う開発NGOや開発教育を推進するNGOなどが次々に設立されていく。1980年に設立されたアガ・カーン財団（Aga Khan Foundation Canada: AKFC）などはその一例である。AKFCは「新しい目で世界を見る（Seeing Our World through New Eyes）」という国際開発問題に関する展示会をカナダ6都市の博物館、美術館、科学館などで開催し、述べ100万人を動員したことで知られるが、この展示会には3,000を超える小・中学校も参加していた。このイベントにはCIDAをはじめ、40以上ものカナダ内外のNGOの協力があつた。

また1988年、CIDAは戦略レポート「我々の未来を共有する（Sharing Our Future）」を発行すると同時に、ODA憲章を発表している。このレポートは、2000年に向けたカナダ政府の開発援助戦略が記されており、将来的な同国開発援助の指針として位置付けられた。また、ODA憲章には、途上国とカナダ市民とのパートナーシップの強化が謳われ、今後、CIDAとして一層国際教育の推進に取り組むことが求められた<sup>9</sup>。この時期、CIDAはグローバル教育の普及にも取り組み始める。グローバル教育はもともと1970年代にアメリカにおいて提唱された国際社会の中で教育を考えようという運動であったが、それがイギリスなど欧州諸国に受け継がれ、1980年代後半になって同国において取り入れられるようになったと言える。具体的には、州政府や教員団体に対して財政的支援を行うことで同教育を学校現場において根付かせようという試みである。CIDAからの財政支援によって、1987年にニュー・ブランズウィック州を皮切りに、アルバータ州など計8州でグローバル教育プロジェクトが大々的に展開された。こうしたプロジェクトは現職教員の研修（現職教育）に焦点を当てたことが大きな特徴で、1991年時点で全国の教員の約90%が何らかの形でグローバル教育に関わるようになったと言われている<sup>10</sup>。このようなグローバル教育の急速な拡大は、イギリスにおけるグローバル教育（正確にはワールド・スタディーズ＜World Studies＞）の実践家兼研究者であるデビッド・セルビー（David Selby）の招聘にも大きく影響を与えたとも言える。彼は1992年にトロント大学オンタリオ教育研究所（Ontario Institute for Studies in Education: OISE, University of Toronto）に招聘され、2003年まで同大学の教授兼グローバル教育国際研究所所長を務めた。

さて、この時期は多文化主義教育の発展期でもあつた。1982年の「人種関係および法律に関するシンポジウム」の開催、及び有色人少数民族・メディア会議などの設置を受けて、翌年には下院に「カナダ社会への有色人少数民族集団の参加に関する特別委員会」が創設され、『今こそ平等を！（Equality Now!）』（1984年）という報告書を発表している。ちょうど政権の座についたばかりの進歩保守党出身のマルルーニー（Martin Brian Mulroney）首相は、多文化主義に対して積極的な姿勢を示し、①政治的平等と公的参加、②経済的機会均等、③政府のサービスへの平等なアクセス、④文化の保持と英語・フランス語のいずれかを第二言語とする訓練に力点を置く教育の機会、⑤人種差別の終止、という5つの目標を掲げ、政策を推進していった。この後、多文化主義についての会議やシンポジウムが次々に開催され、法的な制度も整え始められた。カナダ多文化・異文化間教育審議会（Canadian Council for Multicultural and Intercultural Education: CCMIE）による声明である「多文化主義は、すべての文化の人々と集団が受け入れられるような社会とカナダ人としてのアイデンティティを培うものである。多文化主義は、民族的、人種的、宗教的、言語的共通性と差異性に価値が

<sup>8</sup> OECD “Geographical Distribution of Financial Flow” 2003 を参照。

<sup>9</sup> 国際協力推進協会『開発教育実践の手引き - 開発教育ガイドブック 2』1993、p.27 参照。

<sup>10</sup> 森田真樹「カナダにおけるグローバル教育の展開」『グローバル教育の理論と実践』教育開発研究所、2007年、p.46 参照。

与えられ、それが尊重されるような人間関係と集団関係を増進する」はカナダ人としての国民的アイデンティティの養成を軸に、多文化社会への教育を目指すものであり、ここではカナダ社会を人種の「るつぼ」と見るのではなく、「モザイク」として見る観点が含まれている。さらに、多文化・多人種都市コミュニティにおける治安維持に関するシンポジウム（1984年）、多文化主義に関する第1回連邦・州・準州会議（1985年）、観光事業・多文化主義ニュース会議、多文化主義ビジネス会議（Multiculturalism Means Business）（共に1986年）の開催、カナダ多文化主義法（Canadian Multiculturalism Act）の制定<sup>11</sup>及び多文化主義省の設置（共に1988年）といった具合に多文化主義は様々な議論を通して洗練されていく。いわば、関口（1988）の言う「統一的多文化主義」である。

一方、この時期の各州の多文化主義への対応はどのようなものであっただろうか。オンタリオ州では1981年に多文化主義教育に関する全国会議（National Conference on Multicultural Education）が開催され、異文化に対する畏敬の念を増進する教育が強調され、多文化主義教育（Multicultural Education）は学校だけでなく、地域社会や経済界、労働界を含めた幅広い問題として捉え、取り組んでいくことが共通認識された。具体的には、特定の生徒のみが選択し、参加する教科の中で多文化主義を学習するのではなく、カナダ学や歴史学、社会科学など全員に共通の必須教科の中での多文化主義精神の学習とあらゆる教科を通じた総合的な多文化主義精神の涵養が目指されることとなった。引き続き、1984年には2回目の会議が開催されたが、この時には多文化・異文化間教育に関する全国会議（National Conference on Multicultural and Intercultural Education）と名称が変更され、かつその実施主体として CCMIE が発足した。また、1988年にはこれまで継続されてきた遺産言語プログラムにおいて、25名以上の親の要請で教育委員会に当該言語プログラムの設置義務が発生するという規定が法制化され、1993年には国際言語プログラムという新しい名称になる。

ケベック州では、フランス語憲章制定以降、英語系住民が周辺州へ移住するなど減少傾向が続いていたが、ようやく1986年になって増加傾向へ転じるようになった。これは遺産言語プログラムなど英語系住民にも配慮した政策が徐々にとられるようになったことが大きい。また、英仏語以外の住民も急増し、この時期州人口全体の10%を占めるに至った。これは、こうした英仏語以外の住民の出生率が一般的に高いことが関係している。こうして、フランス語系文化及び言語支配を目指してきたケベック州においても、増加し続けるフランス語系以外の住民にも配慮しなければならない状況となってきた。

### (3) 国際教育の停滞期（1990年代）

1990年代に入り、カナダの開発援助は大きな転換期を迎えた。この時期、深刻な経済不況と景気後退の影響で社会全体が停滞するとともに失業者が増大し、市民の社会に対する不満が徐々に高まっていった。また、およそ9年間政権の座についていたマルルーニー首相が退陣し、代わってカナダ自由党出身のクレティエン（Joseph Jacques Jean Chrétien）が政権を握ると、CIDAの総裁交代を始め、カナダODAの見直しなど、次々と国際教育に大きな影響を及ぼす事態が起こっていった。カナダODAの見直しについては、「セコア・レポート」が作成され、今後のODAの役割及び機構改革にまで及ぶ提言がなされた。こうして、1980年代の開発協力・国際教育関連団体にとってはバラ色であった時代が終わりを見せ、その将来に暗い陰りが見られるようになったのである。CIDAの予算は年々削減され、1990年の23億米ドル（およそ2,700億円）を頂点に、1999年には12億米ドル（およそ1,400億円）と半減している。

ODAの削減は、長年実施されてきたNGOへの資金提供の減額を余儀なくされ、これまで同プログラムに依存してきたNGOに大きなダメージを与え、活動を停止したNGOも多数見られた。ただ、そのような厳しい状況にありながらも、事務局長を交代し、政策・方針を変えて新たな挑戦を試みたり、CIDA以外の財源を模索したりしながら、生き残りをかけて懸命に努力したNGOもあった。1995年に設立されたVSO Canada

<sup>11</sup> この法律によって、1970年代の「多様性の承認」から「人種差別解消」という方向に多文化主義の内容が変化した。

(Volunteer Service Overseas Canada) はその中でも例外的な NGO であり、国内におけるボランティアの機会を若者に提供し、積極的に若者に対する教育活動を支援し続け、注目を集めた<sup>12</sup>。

さて、この時期は多文化主義教育の分野においても厳しい状況が見られた。クレティエン首相の連邦政府行政機構改革の一貫として、多文化主義政策も経費削減の対象とされたからである。1993年、多文化主義省は国務省の一部機関である民族遺産省 (Department of Canadian Heritage) へと移管されると同時に、移民問題はシティズンシップと結びつけられ、シティズンシップ・移民省 (Department of Citizenship and Immigration Canada: CIC) という新たな省が創設された。こうした背景には、1992年5月にトロントで起こった暴動などの影響が少なくない。この暴動は黒人若年層によって引き起こされ、2日間の平和集会が一瞬にして略奪・破壊行為に変わってしまった悲惨な事件である。同国社会の人種主義・人種差別に対する不満が一举に爆発したものと考えられるが、これによって反人種差別、多様な民族に対する公正な教育の重要性が改めて認識され、同時にカナダ市民としての共通のアイデンティティの形成が求められるようになった。こうして、移民やマイノリティ集団に対するカナダ社会への統合が一気に進められた。1994年に開始されたメトロポリス・プロジェクトはその代表的なもので、移民の社会統合を目指した教育政策である。また、1996年には社会的統合に関わる政策研究小委員会の設置、1998年にはシティズンシップ教育の研究フォーラムの結成など、シティズンシップ教育によって多文化社会であるカナダを社会的に統合しようと動きは加速していった。

実は、シティズンシップ教育は1980年代後半から関係者の間で盛んに議論されてきたものであり、参加重視の行動的シティズンシップが求められていた。カリキュラム上では、批判的・創造的思考力、問題解決能力、意思決定能力などを体験的に学ぶべく、選挙や地域・学校でのボランティア、環境等グローバルな課題解決に向けた活動が位置付けられていた。1990年代半ばになって、隣国アメリカとの経済協定による関係緊密化、グローバル経済のもとでの競争力育成を目指した労働者育成への関心の高まりからシティズンシップ教育は一旦下火になったが、1990年代後半から再び盛んとなり、この時期には同国のすべての州・準州においてシティズンシップ教育は何らかの形でカリキュラムに位置付けられるようになっていた。

先に触れたグローバル教育は、1980年代後半に急速な広がりを見たものの、1995年にCIDAからの財政的支援は打ち切れ、一時期停滞状況に入った。しかし、この時期新しく台頭してきたシティズンシップ教育と結びつき、グローバルな視点をもったカナダ市民の育成を目指したグローバル・シティズンシップ教育として新しい方向性が形作られようとしていた。このグローバル・シティズンシップ教育（単に「シティズンシップ教育」とも呼ぶ）は2000年代に入って活気を帯びてくる。

#### (4) 国際教育の新たな時代（2000年以降）

2000年に入ると、国際教育は新たな形態をとって再び盛んになってくる。すなわち、グローバルな視点をもったカナダ市民の育成を目標にしたグローバル・シティズンシップ教育である。これは、いわば1980年代後半に隆盛を極めたグローバル教育が、1990年代後半から台頭してきたシティズンシップ教育という枠組みの中に組み入れられたものと理解することができる<sup>13</sup>。この新しいグローバル・シティズンシップ教育がこの時期に盛んになった理由として、CIDAによる開発NGOに対する財政的支援の再開、カナダ市民としてのアイデンティティ涵養の高まりなどがあると考えられる。CIDAは長らく継続してきた財政支援を1995年に打ち切ったが、2002年からGlobal Classroom Initiativesとして再開した。この支援再開によって、学校現場におけ

<sup>12</sup> VSO Canada は2008年にCUSOと統合され、CUSO-VSOとなる。さらに、2011年にはCUSO Internationalと名称を改め、現在に至っている。

<sup>13</sup> これは調査チームの解釈であるが、同国では「グローバル教育」と「シティズンシップ教育」という2つの用語が別々に用いられており、どちらの用語を用いるかは組織・機関の目的や役割に大きく影響されている。例えば、開発NGOでは主として前者を用いているのに対し、政府関係機関では後者を用いていることが多い。学校現場では両者が混在しているという状況である。

る授業実践でのグローバルな見方の促進、国際協力についての知識の拡大、グローバルな相互依存関係とカナダの役割の理解の浸透などを目指すプログラムが次々に実践されるようになってきている。こうした状況を背景に、州教育省、教員団体、NGO などによるグローバル教育事業の拡大、大学院でのグローバル教育専攻の設置、現職教員を対象としたワークショップなどの研修プログラムの拡充などもなされるようになってきており、全国のグローバル教育の取り組みが本格化してきている。

一方、カナダ市民としてのアイデンティティの涵養という点については、学校教育はもちろんであるが、生涯教育や青年教育といった学校外教育を含めた社会教育全般の中で推進されている。例えば、シティズンシップ・移民省では、新規移民向けの各種ガイドの発行、カナダ人ボランティアや NGO 及びコミュニティ組織との連携による定着促進プログラムの展開、シティズンシップ教育及び学習活動を奨励する「シティズンシップ週間」の設定などが行われている。特に、「シティズンシップ週間」の期間中における学習事例を集めた『Sharing the Harvest: A Year-Round Activity Guide about Global Citizenship』も発行されており、学校現場で活用されている。また、民族遺産省では行動的シティズンシップの育成、ボランティア活動を通じたコミュニティ参加の推進、州を超えた交流・相互理解の促進を目指した各種青年向けプログラムを展開する他、学校外活動で活用できる学習リソースガイドやウェブ教材の提供、さらに助成金プログラムを通じてのシティズンシップ教育実践の資金と場を提供している。

## 12-2 国際教育に対する政府と市民社会の動き

### 12-2-1 多文化主義・シティズンシップ教育に対する政府の動き

国際教育におけるカナダ政府の対応は、大きく見て2つあると考えられる。一つは、グローバル教育 (Global Education) の普及・推進を目指す CIDA を中心とした活動であり、もう一つは、カナダの多文化主義及びシティズンシップに焦点を当てたシティズンシップ・移民省などによる活動である。前者については、「6-4 カナダの援助機関の役割 - 国際教育とその推進」の項で詳述することにし、ここでは後者に焦点を当てて説明をする。

多文化主義及びシティズンシップ教育に関する活動を展開している連邦政府の省庁としては、先述のシティズンシップ・移民省と民族遺産省がある。

#### (1) シティズンシップ・移民省 (Department of Citizenship and Immigration Canada : CIC)

同省はもともと移民の入国管理や市民権に関する業務を中心に行う組織であるが、多文化主義に関する教育的取り組みとカナダ人としての共通のシティズンシップの涵養を目指した教育的取り組みを行っている。これらを担当する部局は戦略的プログラム及び政策開発局 (Strategic Program and Policy Development)、オペレーション局 (Operations)、コミュニケーション局 (Communications) の3つである。

まず、シティズンシップに関する教育的取り組みの代表的なものとして「シティズンシップ週間 (Citizenship Week)」があり、この機会を利用してカナダ人としてのアイデンティティを育成しようとしている。同省ウェブサイトには、「カナダのシティズンシップ週間を祝うための12の方法 (Twelve ways to celebrate Canada's Citizenship Week)」という項目があり、以下のような12の方法があげられている。

## カナダのシティズンシップ週間を祝うための 12 の方法<sup>14</sup>

1. フェイスブックやツイッターで、CIC の双方向通信キャンペーンに参加しよう
2. カナダをテーマにした友人や家族の集まる機会をもって、自身のシティズンシップについて再確認をしよう
3. 「カナダ・シティズンシップ週間」のポスターを職場や自宅に飾ろう
4. 新しい視聴覚ガイド「Discover Canada: The Rights and Responsibilities of Citizenship」や他のシティズンシップに関する資料を読んだり聴いたりすれば、カナダについて何か新しいことを学べるでしょう
5. シティズンシップ再確認会（Reaffirmation Ceremony）へ参加したり、主催したりして自身のシティズンシップを再確認しよう
6. カナダ国旗を誇らしく掲げよう
7. 地域のシティズンシップ週間セレモニー（Citizenship Week Ceremony）に参加しよう
8. クイズ「あなたはどのようなカナダ人ですか？（How Canadian Are You?）」を試したり、CIC がウェブサイト上で提供するシティズンシップ・ゲームを行おう
9. 他のカナダ人の経験を学ぶために、CIC のウェブサイトにあるビデオを視聴しよう
10. CIC のウェブサイトの写真展にアクセスしよう
11. 参加しよう！あなたの地域（あるいは組織や学校）でボランティアとして活動しよう
12. 最近カナダ人となった人がカナダ人であることについてどう考えているかを理解しよう

「カナダのシティズンシップ週間を祝う 12 の方法」の中で述べられているポスター、視聴覚ガイド、ゲーム、ビデオなどは CIC が独自に開発したものである。ここで、これらの教材について少し説明する。まず、「カナダ・シティズンシップ週間」ポスターは、下に示したようにたいへんシンプルなデザインとなっているが、この中にはカナダ市民として心得るべき重要なキーワードが散りばめられている。「君主制 (Monarch)」、「連邦主義 (Federalism)」、「議会制 (Parliament)」、「法 (Rule of Law)」、「伝統 (Heritage)」、「他人の尊重 (Respect)」、「責任 (Responsibilities)」、「自尊心 (Self-respect)」、「平等性 (Equality)」、「自由 (Free)」、「機会 (Opportunities)」等である。

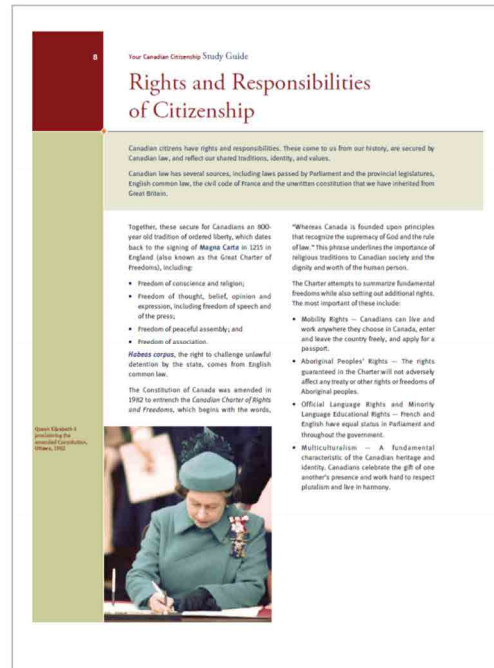
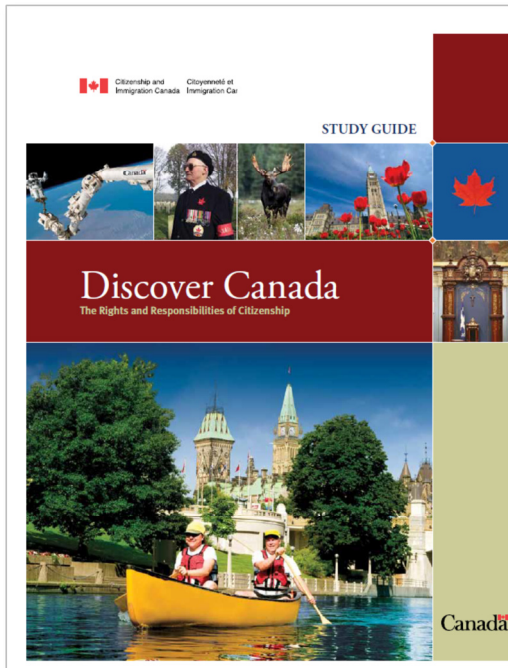


「カナダ・シティズンシップ週間」のポスター

<sup>14</sup> CIC のウェブサイト、<http://www.cic.gc.ca/english/celebrate/citweek-10.asp> を参照。



『Discover Canada: The Rights and Responsibilities of Citizenship』は、カナダ市民についてのスタディー・ガイドとして、2009年に冊子が発行され、2012年にはビデオ教材も発行された。カナダという国家の仕組みから政治、経済、宗教といったあらゆる項目についてその概要がわかりやすく解説されている。多くの写真も掲載され、非常に見やすい編集となっている。また、最後には「Study Questions」として、内容理解のための設問が用意されていたり、さらにはもっと詳細な情報を知りたい人のため各種参照ウェブサイトのアドレスも掲載されており、まさにカナダのシティズンシップを学ぶための価値ある教材である。この冊子は100万部が印刷され広く無料で配布された。評判もとてもよく、現在でも高いニーズがある。

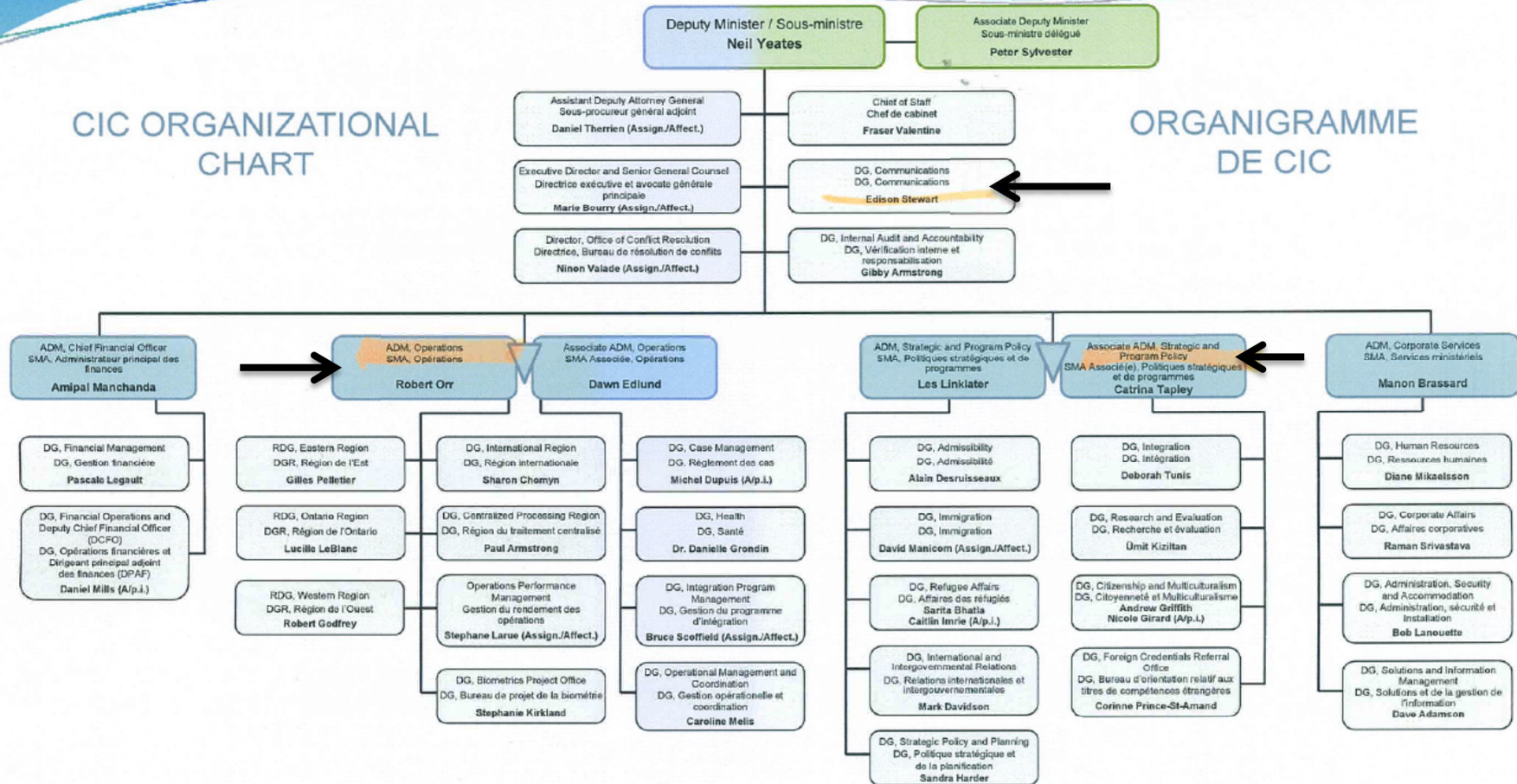


スタディー・ガイド『Discover Canada: The Rights and Responsibilities of Citizenship』の表紙（左上）とその内容例



CIC ORGANIZATIONAL CHART

ORGANIGRAMME DE CIC



注：上図矢印は多文化主義またはシティズンシップに関する教育的活動を担っている部署

シティズンシップ・移民省の組織図

「あなたはどれだけカナダ人ですか？ (How Canadian Are You?)」は、ウェブサイト上で展開されるカナダの歴史に関する 100 以上の設問から構成されたクイズである。カナダ市民として知っておく必要がある内容を 4 択 (なかには 2 択) の中から選んで回答するようになっている。この設問は常時更新されるので、何度でも繰り返して挑戦することが可能である。すべての設問は、上記のガイドに掲載された内容から構成されており、上記ガイド内容を熟知していれば、容易に回答できる。

「楽しい学び方 (A Fun Path to Learning)」では、学校でシティズンシップ教育を行う場合に活用可能な教材が掲載されている。その多くがゲーム形式になっており、カナダの歴史、政治、地理などに関する内容を楽しみながら理解できる。設問形式、図絵マッチング形式、クロスワードパズル形式をはじめとした様々なゲームが準備されている。例えば、以下に示すように、カナダの州及び準州の旗とその名称をマッチさせるマッチングゲームやカナダの地理及び歴史に関する内容についてのクロスワードパズルなどがある。

The screenshot shows the Citizenship and Immigration Canada website. The main navigation bar includes links for 'Immigrate', 'Visit', 'Work', 'Study', 'Citizenship', 'New immigrants', 'Canadians', and 'My Application'. A search bar is located on the right. The page content is organized into several sections:

- Canadians:** A list of links including 'Sponsor a family member', 'Apply for proof of citizenship', 'Adopt a child', 'Sponsor a refugee', 'Hire foreign workers', and 'Celebrate being Canadian'.
- Be active in your community:** A link to 'Immerse yourself in Canadian history'.
- Games:** A section titled 'A fun path to learning' with the text 'Play games that will help you learn your school subjects in a fun way! All of the games are related to citizenship, immigration and multiculturalism.' Below this are three game cards:
  - Race to the Voting Box:** 'Which documents do you need to vote? Try to find all the documents in the maze before time runs out. But be careful of the potholes!' (Illustrated with a cartoon character).
  - Confederation Time Line:** 'See if you know the order in which Canada's provinces and territories joined the Confederation.' (Illustrated with a timeline).
  - House of Commons Hidden Objects:** 'You have five minutes to find all the hidden objects in the House of Commons. Can you find them before the clock runs out?' (Illustrated with the interior of the House of Commons).
- Need Help?:** A section with the text 'Find answers in the Help Centre' and a 'GO' button.

This screenshot shows a matching game interface. It consists of a vertical list of Canadian province and territory flags on the left, and their corresponding names on the right. The names are: British Columbia, Canada, Manitoba, New Brunswick, Newfoundland and Labrador, Nova Scotia, Nunavut, Northwest Territories, Ontario, Prince Edward Island, and Quebec. Each name is preceded by a small icon of the flag it represents.

This screenshot shows a crossword puzzle titled 'Great Canadian Crossword'. The grid is partially filled with letters and has numbers indicating the starting points for the clues. The clues are as follows:

**DOWN**

1. What Canadian female pop singer from Quebec has earned music industry accolades from around the world, earning awards in the U.S., Latin and the UK, and in Canada and won the Nobel Peace Prize in Bergen?
2. The "spontaneous generator" who uses education with entertainment, has earned a well-deserved reputation as an environmental guru for two generations of Canadians.
3. \_\_\_\_\_ Adams is a famous male recording artist who has won 18 Juno awards.
4. What author has sold over 50 million copies of his books and has been translated into more than a dozen languages? One of his most popular books is called "Hunger for Memory".
5. Which hockey player was called "The Great One"?
6. \_\_\_\_\_ was the 23rd Premier of Quebec and the founder of the Parti Québécois.
7. Alexander Graham Bell invented the \_\_\_\_\_ at his summer house in Canada.
8. The famous French-Canadian entrepreneur and philanthropist started his career as a circus performer and is now the CEO of Cirque du Soleil.
9. Roberto \_\_\_\_\_ was Canada's first female astronaut and the first neurologist to walk space.
10. Which Korean Canadian actress is best known for her role as Dr. Christine Yang on Grey's Anatomy?
11. At the 1988 Olympic Summer Games, Dennis \_\_\_\_\_ became a world record holder and a double Olympic gold medalist.
12. Terry \_\_\_\_\_ lost his leg in a car crash at age 16, which inspired him to run across Canada (the "Marathon of Hope") to raise money for cancer research.

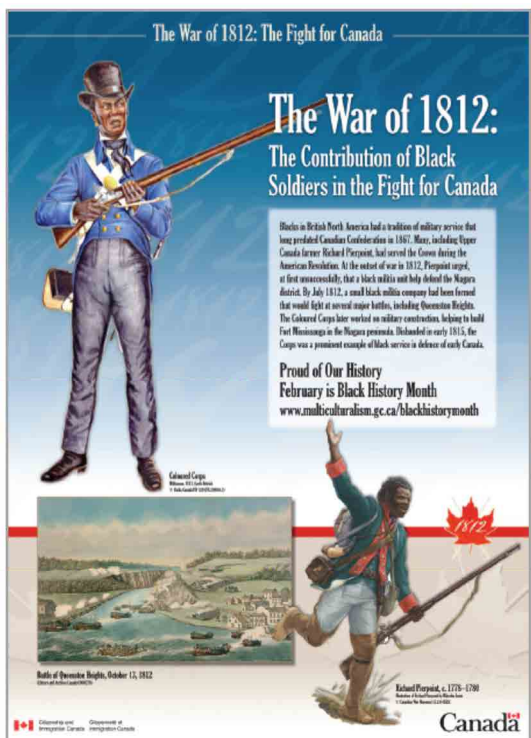
**ACROSS**

13. Sir John A. \_\_\_\_\_ was the first prime minister of Canada.
14. \_\_\_\_\_ made a long trip on foot to win the British of a plumed American attack, then serving his place in history as a member of the War of 1812.
15. Sir Frederick Banting discovered \_\_\_\_\_, which brought hope to diabetics all over the world.
16. \_\_\_\_\_ was known as one of the most valuable defencemen in the national hockey league for nearly 22 years, he made another huge contribution to Canadian culture when he lost his nerve for a diagnosed death in 1984.
17. Canadian hockey icon Lindy Rempel of Preston is best known for the silver cup awarded to the best team in the National Hockey League. What is this silver cup called?
18. \_\_\_\_\_ is a famous Canadian author who has seen more than 55 awards, in Canada and internationally.
19. \_\_\_\_\_ Campbell is a former Canadian female ice hockey player and gold medalist. She was the captain of the Canadian ice hockey team during the 2002 and 2006 Winter Olympics.
20. \_\_\_\_\_ is a former Saturday Night Live alumna and Canadian magazine who not only directed but also starred in "Heath Ledger".
21. The famous entrepreneur financed the building of Montreal's first theatre. He is also known for building one of the largest breweries in the world.

「楽しい学び方 (A Fun Path to Learning)」のウェブサイト (上) とその中のゲーム例: マッチングゲーム (左)、クロスワードパズル (右)

その他、CIC では「カナダ市民のチャレンジ(Canadian Citizenship Challenge)」や「学校協カプロジェクト(School Twinning Project)」という活動支援も行っている。前者は、ヒストリカ・ドミニオン研究所の主導によるものでカナダのシティズンシップに関する 20 程度の問題をクラスで生徒に解答させ、それを同研究所に送付すると、採点され、成績のよかった生徒が表彰されるという活動である。この生徒は副賞としてオタワまでのスタディ旅行が贈呈される。後者は、異なった学校の生徒たちがシティズンシップに関する与えられたテーマについて協働して取り組むというものである。テーマは毎年異なり、例えば、2013 年のテーマは「カナダの民主主義」、「ボランティアとコミュニティ参加」、「過去の教訓と現在の活動」という 3 つが用意され、生徒はその中から一つを選んで作業をする。

他方、多文化主義教育に関して、CIC では、カナダ社会の他民族、多文化社会の現状をよりよく理解し、様々な文化的背景をもった人々が社会的、経済的、文化的、そして政治的な活動に積極的に参加し、協力しながらよりよい社会を構築していくことを目的に、お互いの異なった文化や考え方を学ぶ機会として、毎年 2 月を「黒人の歴史理解月間 (Black History Month)」、毎年 5 月を「アジアの遺産理解月間 (Asian Heritage Month)」と定めている。それぞれの期間には、アフリカ系カナダ人及びアジア系カナダ人について理解を深めることのできる各種イベントや催しが実施されている。また、学校現場でも特別な時間を設けて、アフリカ文化やアジアの伝統についての授業が行われるなど、カナダ社会全般において、多文化主義についての教育が実践されるよい機会となっている。CIC では、上記のシティズンシップに関する活動と同様、アフリカ系及びアジア系カナダ人に関する内容を扱ったゲーム教材なども開発し、それをウェブサイト上で公開している。さらに、「ポール・ユズック多文化主義賞 (Paul Yuzyk Award for Multiculturalism)」を設けて、多文化主義教育に貢献した個人及び団体を表彰している。選ばれた個人や団体は 2,000 カナダドル (約 18 万円) が副賞として贈呈される。



### Black History Month

#### Word Scramble

Unscramble the letters above each photo to spell the name of a black person who has made a significant impact in Canada.

- 

**1. RRITEAH NTUEAH**  
This woman fought the slavery of Blackie and was a heroine of the Underground Railroad. She is believed to have made 19 secret trips to the American South and guided more than 300 slaves to freedom in Canada.
- 

**2. PPEINLM WISRAT ESSIG**  
This man was a leading merchant and one of the first Blacks to be elected as a city councillor in Victoria, British Columbia.
- 

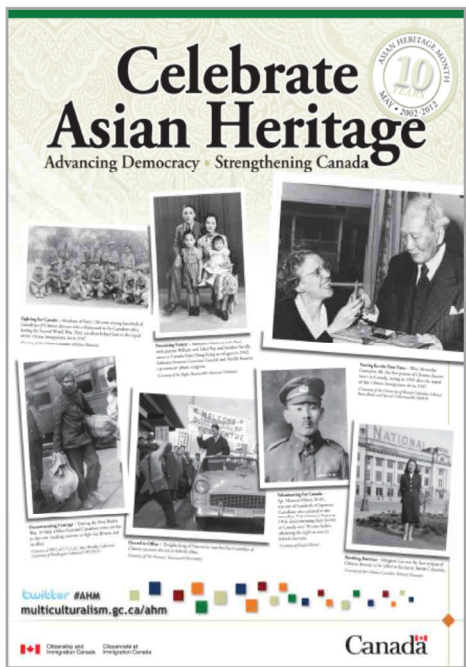
**3. MWillai LHAL**  
This man was born in Marlon Bluff, Nova Scotia. He became the first Black, the first Nova Scotian and one of the first Canadians to be awarded the Victoria Cross, the highest medal of honour given in the British Commonwealth.
- 

**4. HAIsoJ HONNSE**  
This man and his family escaped to Canada from the United States. He helped many slaves adapt to life in Upper Canada and is the inspiration behind Marxist Socialist Stowe's character Uncle Tom.
- 

**5. DR. WISLNO DONAHAIJ HAED**  
This man moved from the United States to Canada in 1929. He created the Urban Alliance on Race Relations in 1975. The organization still fights discrimination against all ethnic-racial communities.

「黒人の歴史理解月間」のポスター（左）、及びアフリカ系カナダ人について理解を深めるためのゲーム（右）





### Organizations and Educational Resources

#### Organizations

##### National

[Asia Pacific Foundation of Canada](#)  
The Asia Pacific Foundation of Canada, created by an Act of Parliament in 1984, is an independent, not-for-profit think-tank on Canada's relations with Asia.

[Canadian Multicultural Council](#) - Asians in Ontario (English Only)  
The link takes you to the Canadian Multicultural Council's Facebook page. The Council is an umbrella organization representing more than 20 Asian countries, ethnic regions and cultures in Canada.

[Chinese Canadian National Council](#)  
The Council promotes the rights of all individuals, in particular those of Chinese Canadians, and encourages their full and equal participation in Canadian society. The Council also helps promote understanding and co-operation between Chinese Canadians and all other ethnic, cultural and racial groups in Canada.

[Vietnamese Canadian Federation](#) (English Only)  
The Vietnamese Canadian Federation, a non-profit organization that represents 11 associations across Canada, provides a unified voice for Vietnamese Canadians. Its objectives are to maintain solidarity among Vietnamese associations in the country, work for the preservation and development of Vietnamese culture, and foster the spirit of mutual help and community responsibility.

##### British Columbia

[Chinatown Vancouver](#) (English Only)  
Vancouver has been home to a vibrant Chinese community since the mid-19th century. Today, Vancouver's Chinatown is one of the largest in North America and provides an authentic Asian encounter complete with unique architecture, exotic culinary aromas and an array of imported goods.

[Chinese Cultural Centre of Greater Vancouver](#) (English Only)  
The Centre promotes understanding and friendship between the Chinese community and other cultural groups in Canada.

[National Nikkei Museum & Heritage Centre](#) (English Only)  
The National Nikkei Museum and Heritage Centre opened in September 2000 and houses the National Nikkei Heritage Centre and the Japanese Canadian National Museum. The Centre's mandate is to promote a better understanding and appreciation of Japanese Canadian culture and heritage, and the contribution of Japanese Canadians to Canadian society.

[Vancouver Asian Heritage Month Society - ExplorAsian.org](#) (English Only)

「アジアの遺産理解月間」のポスター（左）とウェブサイト上の参考資料リスト（右）

## (2) 民族遺産省 (Department of Canadian Heritage)

同省には、市民参加局 (Citizen Participation Branch) という部署があり、ここが中心となってシティズンシップ教育関連の様々なプログラムを運営している。なかでも特に注目されるのが、エクスチェンジ・カナダ (Exchange Canada) とカナダ学習プログラム (Canadian Studies Program : CPS) である。前者は、カナダの若者の同国についての理解を深めることを目的に行われるもので、ユース・エクスチェンジ (Youth Exchange) への参加を通して、カナダの国家や文化についての様々な知識の共有を行うと共に、若者集会 (Youth Forum) において日頃抱いている疑問などについて討議するというものである。同省はこのプログラム促進のため、ポスターや冊子の作成、さらにウェブサイトを作成し、そこでは同プログラムの内容が視覚的に理解できるビデオも用意されている。



Youth Exchange Program の広報ポスター



Youth Exchange Program を紹介する民族遺産省のウェブサイト

カナダ学習プログラムも、カナダ国民が歴史、地理、政治制度、文化など同国についての理解をより深めることを目的に行われているプログラムであるが、ここでの中心は学習教材の開発やそれに付随した学習活動への資金援助である。資金援助の対象となるテーマは、これまでに行われた調査の中で教材の不足が指摘された、①統治制度とシティズンシップ (Governance and Citizenship)、②カナダの公用語 (Canada's Official Languages)、③カナダの多様性と多文化主義 (Diversity and Multiculturalism in Canada)、④先住民研究 (Aboriginal Studies)、⑤カナダの歴史解釈能力 (Canadian History Interpretation Skills)、の5分野とされている。以下の表は、これまでと同プログラムから資金援助を受けたプロジェクトの抜粋である。

CPS によって資金提供を受けたプロジェクト (一例)

1	Slavery and Abolition in Canada <Dr. David Calverley>
	奴隷制度、人種主義、人種差別などについて児童生徒の理解を深めることを目的に、コンピュータのオンライン上で視聴できるテキストブックの作成。対象学年は4年生から8年生までを想定。
2	The Law Project: Impact of Indian Residential Schools <British Columbia Social Studies Teacher's Association>
	インド人居住地域に対する認識と理解を通じて、市民権、法、人権問題に関する学習を行うことを目的に双方向通信のウェブサイト教材モジュールを開発する。対象学年は8年生から12年生、及びその学年を担当する教員である。
3	Democracy in Canada: Representative Government in the Canadian Context <The Civics Channel Inc.>
	カナダの代議政体 250 周年を機に、これについて学習するコンピュータ上のウェブサイトを開発する。このサイトは、教師の代議政体についての教授活動を支援するために詳細な情報、指導案、練習問題などを提供する。また、サイトとは別に、教師用ガイドブックの作成も含まれている。

出典：民族遺産省のウェブサイト、[http://www.pch.gc.ca/pgm/pec-csp/publctn/projects\\_2004-06-eng.cfm#a2](http://www.pch.gc.ca/pgm/pec-csp/publctn/projects_2004-06-eng.cfm#a2) 参照。

### (3) オンタリオ州教育省 (Ministry of Education Ontario)

ここで、カナダの教育省の国際教育についての動きについても触れておく必要がある。ただし、カナダには先に見たシティズンシップ・移民省や民族遺産省と同様な連邦政府の教育省というものは存在しない。先述のように、教育に関しては各州政府の管轄となっているために各州に教育省が存在している<sup>15</sup>。したがって、ここでは今回の現地調査で訪問したオンタリオ州教育省における国際教育の動きについて述べる。

オンタリオ州では、独自のカリキュラムを策定しているが、そのカリキュラムの基本的な考え方として、学習内容が日常生活に還元され、具体的な形で結びつくことが可能となるように教授・学習活動を行っていくことが強調されており、また近年のグローバル社会においてよりよく生きていくためには広い視野をもち、積極的に世界に目を向け、自分とは異なった文化や環境についても理解でき、協調できる態度の養成は欠くことができないものとなっているという認識が強調されている。そこで、オンタリオ州の教科書を見ると、グローバルな視点が様々な形で取り入れられていることが分かる。「社会科 (Social Studies)」(第1～6 学年) や「カナダの歴史と地理 (History and Geography)」(第7～8 学年)、「カナダ・世界学 (Canadian and World Studies)」(第9～12 学年) はもちろんのこと、一見、グローバルな視点とは関係が薄いように見える「算数」や「数学」といった教科においても、この視点が巧みに挿入されている。

現地調査で CSC を訪れた際、下のような教科書の内容例が示された。これは、小学校 (低学年) の算数の教科書の 1 ページである。簡単な計算の単元であるが、その中に先住民の数の数え方に関する知識が紹介され、それを実際に行ってみるという演習が準備されている。これはまさしくグローバルな視点を算数に取り入れた好例と言えるのではないだろうか<sup>16</sup>。



オンタリオ州の小学校 (低学年) の算数の教科書の一例

<sup>15</sup> カナダには教育を管轄する連邦政府機関はないものの、Council of Ministers of Education Canada(CMEC)と呼ばれる各州の教育大臣による協議会があり、ここで各州間の教育政策等の意見交換などを行っている。

<sup>16</sup> ただし、CSC でこの教科書内容例が提示された文脈は、同内容が評価の段階で不適当だとされたという指摘があったというのである。その理由は、同挿絵 (人物) が白人的な表情をしており、先住民とは似ていないということであったらしい。評価においては、文章で書かれた内容はもちろん、こうした挿絵の詳細にまで及んでいることがわかる。



## 12-2-2 国際教育に対する市民社会の動き

カナダ国内には数多くの開発 NGO が存在しており、それぞれが多様な活動を展開している。すでに触れたように、同国においては政府から NGO に対する資金援助が積極的に行われてきたこともあって、グローバル教育やシティズンシップ教育についての教材開発、イベント開催、ワークショップや講演会などが盛んである。少し古い資料になるが、高柳（1992 年）は、「カナダの NGO の 77%は何らかの開発教育活動を行い、NGO のスタッフの 10%が開発教育に従事している」と言及しており、また「開発教育専門の NGO も 50 団体前後ある」という記述もある<sup>17</sup>。このように、カナダは開発教育における代表的な NGO 大国の一つであると言える。

しかしながら、カナダの開発 NGO はイギリスのように組織立っておらず、全体像を把握することが容易ではない。カナダ国内の開発 NGO の連携組織として、カナダ国際協力協会（Canadian Council for International Cooperation: CCIC）があり、100 程度の団体が加盟しているが、この数は開発 NGO の一部でしかない。したがって、全国組織としての CCIC でもすべての開発 NGO とのネットワークを構築しているわけではない。実は、カナダには CCIC 以外にも、各州やいくつかの周辺州の連合体による連携組織があり、それらの州ごとの連携組織がある程度、その管轄地域に存在する開発 NGO との連携を保っていると言える。また、これらの連携組織間ではインター・カウンシル・ネットワーク（Inter-Council Network）を構築して、情報共有や協同研究なども行っている。主な地域連合体は以下のようなものである。

主要な地域の NGO 連合体

組織名	管轄地域	加盟組織数
大西洋国際協力協会 (Atlantic Council for International Cooperation: ACIC)	ノバ・スコシア州 ニューファンドランド・ラブラドル州 プリンス・エドワード・アイランド州 ニュー・ブランズウィック州	28 6 9 11 <b>合計 54</b>
オンタリオ国際協力協会 (Ontario Council for International Cooperation: OCIC)	オンタリオ州	<b>53</b>
マニトバ国際協力協会 (Manitoba Council for International Cooperation: MCIC)	マニトバ州	<b>38</b>
ケベック国際協力協会 (Association québécoise des organismes de coopération internationale)	ケベック州	<b>65</b>
サスカチュワン国際協力協会 (Saskatchewan Council for International Cooperation: SCIC)	サスカチュワン州	<b>31</b>
アルバータ・グローバル協力協会 (Alberta Council for Global Cooperation: ACGC)	アルバータ州	<b>71</b>
ブリティッシュ・コロンビア国際協力協会 (British Columbia Council for International Cooperation: BCCIC)	ブリティッシュ・コロンビア州	<b>47</b>

注：加盟 NGO 数は、すべて 2013 年 1 月現在時点の数値で、正式加盟のみの数値。

出典：各協会のホームページを参照し、調査チームが作成

以下、CCIC 及びオンタリオ州の開発 NGO の連携組織であるオンタリオ国際協力協会（OCIC）を概観し、その後、1970 年代から各州で開発教育を積極的に推進してきた学習センターの代表的存在である Cross-Cultural Learning Center (CCLC)の現況、さらに近年、積極的にグローバル教育などを行う NGO として、Taking IT Global 及びカナダ飢餓財団（Canadian Hunger Foundation）の活動について見ていく。

<sup>17</sup> 高柳彰夫「カナダの開発協力における NGO と政府機関との関係の考察(2)」『一橋研究第 17 巻第 2 号』一橋大学、1992 年、P.102 参照。

### (1) カナダ国際協力協会 (Canadian Council for International Cooperation: CCIC) の活動

CICC はオンタリオ州オタワ市に事務所をおく全国の開発 NGO のアンブレラの組織である。1960 年代に設立され、すでに 45 年の歴史をもつ。現在、およそ 100 の NGO が会員として登録している。同協会の主な役割は、CIDA との対話と開発政策に対する助言である。もともと同協会の運営は CIDA から提供される資金に依存していたが、近年、CIDA の大幅な予算削減によって、同協会へ提供されていた資金も大きくカットされたことから、活動が難しくなっている。職員も以前は 25 名いたが、現在は 8 名に減少している。

同協会では、以前よりグローバル市民の育成を目指して、世界規模の課題の研究や取り組みについての市民参加 (Public Engagement) を積極的に推進してきた。その代表的な活動が、市民参加ハブ (PE Hub) というウェブサイトである。ここでは、登録メンバーになれば、メンバー間で情報や実践事例などが容易に共有できるようになっている。現時点では、全国からおおよそ 500 名のメンバー登録があり、その中には「Development in a Box Resource Kit」や「Join the At Table Campaign」と題したブログを作成、掲載している参加者もいる。

CCIC による市民参加ウェブサイト (Public Engagement Hub: PE Hub)

### (2) オンタリオ国際協力協会 (Ontario Council for International Cooperation: OCIC) の活動

OCIC はオンタリオ州の開発 NGO の連携組織である。主な役割としては、NGO 及び他州の国際協力協会とのネットワーク (The Inter-Council Network) の構築、州内 NGO のキャパシティ・ビルディング (安全管理や会計管理の能力)、開発政策に対するアドボカシー、及びグローバル教育 (Public Engagement と呼んでいる) の促進である。トロントに事務所を置き、職員は現在 5 名である。

OCIC のグローバル教育に関する活動としては、まず、NGO などが行うグローバル教育の情報を収集し、それをお互いに共有できる機会を設定したり、またその中からベスト・プラクティスを選定し、その実践を広く宣伝するなどの活動がある。また、グローバル教育を学校現場で実践するための教材の開発も行っている。代表的なものとして、『You, in the shadow: Classroom Resource』（2009年）がある。これは初等教育の7～8年生を対象にした教材で、グローバル教育の手始めとして簡単な活動例が掲載されている。この冊子の注目すべきところは、実践を評価するためのガイドラインが添えられており、これはオンタリオ州のカリキュラムに沿ったものとなっていることである。すなわち、この冊子の開発にあたって、現場の教師が使いやすいように現行カリキュラム内容が十分に配慮されているということである。この冊子は200部印刷され、州内の学校に無料配布された。さらに、教員協会（Teacher Federation）と連携し、グローバル教育を推進していく上での指導的役割を担える教師を育成することを目的にワークショップ等を開催していたが、現在、この分野の専門性をもった職員がいなくなったため中断している。

Student's Name: .....

### WRITING IN ROLE

CRITERIA	LEVEL 1	LEVEL 2	LEVEL 3	LEVEL 4
<b>KNOWLEDGE/ UNDERSTANDING</b> + characters' motivations, attitudes, and relationships	■ limited believability of characters within the context of the role	■ some believability of characters within the context of the role	■ considerable believability of characters within the context of the role	■ thorough believability of characters within the context of the role
<b>THINKING</b> + use of creative thinking processes	■ uses creative thinking skills in developing events and characters with limited effectiveness	■ uses creative thinking skills in developing events and characters with some effectiveness	■ uses creative thinking skills in developing events and characters with considerable effectiveness	■ uses creative thinking skills in developing events and characters very effectively
<b>COMMUNICATION</b> + sense of audience and purpose (style, voice, and point of view) + expression and organization of ideas (clear beginning, middle, and end) + use of conventions and vocabulary with limited effectiveness	■ communicates sense of different characters and roles with limited effectiveness ■ organizes and expresses ideas with limited effectiveness ■ uses conventions and vocabulary with limited effectiveness	■ communicates sense of different characters and roles with some effectiveness ■ organizes and expresses ideas with some effectiveness ■ uses conventions and vocabulary with some effectiveness	■ communicates sense of different characters and roles with considerable effectiveness ■ organizes and expresses ideas with considerable effectiveness ■ uses conventions and vocabulary with considerable effectiveness	■ communicates sense of different characters and roles very effectively ■ organizes and expresses ideas highly effectively ■ uses conventions and vocabulary very effectively
<b>APPLICATION</b> + use and transfer of knowledge and skills	■ uses and transfers skills with limited effectiveness	■ uses and transfers skills with some effectiveness	■ uses and transfers skills with considerable effectiveness	■ uses and transfers skills with a high degree of effectiveness

### JOURNAL

CRITERIA	LEVEL 1	LEVEL 2	LEVEL 3	LEVEL 4
<b>KNOWLEDGE/ UNDERSTANDING</b> + knowledge and understanding of important (ideas, issues, themes, opinions, information) of the work	■ uses limited specific or accurate detail to support and illustrate ideas and opinions	■ uses some specific or accurate detail to support and illustrate ideas and opinions	■ uses considerable detail to support and illustrate ideas and opinions	■ uses extensive specific and accurate detail to support and illustrate ideas and opinions
<b>THINKING</b> + critical thinking skills (analysis)	■ thinking skills with limited effectiveness	■ thinking skills with some effectiveness	■ thinking skills with considerable effectiveness	■ thinking skills with a high degree of effectiveness
<b>COMMUNICATION</b> + expression and organization of ideas + use of conventions, vocabulary, and terminology with limited effectiveness and clarity	■ expresses and organizes ideas with limited effectiveness and clarity ■ uses conventions, vocabulary, and terminology with limited effectiveness and clarity	■ expresses and organizes ideas with some effectiveness and clarity ■ uses conventions, vocabulary, and terminology with some effectiveness and clarity	■ expresses and organizes ideas with considerable effectiveness and clarity ■ uses conventions, vocabulary, and terminology with considerable effectiveness and clarity	■ expresses and organizes ideas with a high degree of effectiveness and clarity ■ uses conventions, vocabulary, and terminology with a high degree of effectiveness and clarity
<b>APPLICATION</b> + making connections within and between contexts + use and transfer of knowledge and skills to new contexts	■ makes few connections ■ uses and transfers skills with limited effectiveness	■ makes some connections ■ uses and transfers skills with some effectiveness	■ makes effective connections ■ uses and transfers skills with considerable effectiveness	■ makes highly effective connections ■ uses and transfers skills with a high degree of effectiveness

『Classroom Resource』の表紙とオンタリオ州カリキュラムを考慮した評価ガイドライン

OCIC では、学校現場におけるグローバル教育の実践を促進するために、オンタリオ州でグローバル教育に関する活動を行っている開発 NGO について、その組織概要、活動目的、開発された資料、連絡先を取り纏めたガイドブック『GLOBAL COMMUNITIES, LOCAL CLASSROOMS – Teachers' resources for global education』（2009 年）を作成し、州内の学校に無料配布した。同組織のウェブサイト上からもアクセスできる。このガイドブックには次の 17 組織が紹介されている。

- Canada World Youth
- Canadian Association for Community Living
- Canadian Catholic Organization for Development and Peace
- Canadian Physicians for Aid and Relief
- Canadian Red Cross
- Engineers Without Borders
- Horizons of Friendship
- Mines Action Canada
- Operation Eyesight Universal
- Physicians for Global Survival
- SalvAide
- Save a Family Plan
- Save the Children
- Street Kids International
- Taking IT Global
- War Child Canada
- World Vision Canada



『GLOBAL COMMUNITIES, LOCAL CLASSROOMS』で紹介されているグローバル教育推進 NGO

加えて、OCIC は The Inter-Council Network の一員として、2011 年からカナダにおけるグローバル教育実践の効果についての調査研究 ("Exploring Public Engagement Effectiveness in Canada") を実施している。現時点では質問表などを用いて様々なデータを収集し終えたところである。これらのデータ結果は一部纏められ、発表されている。ここからは、例えば、「カナダ人は世界の貧困撲滅に関して、米国や英国の人々に比べ楽観的である」、「世界的な貧困が自分たち自身の生活にも遠からず影響を及ぼすと考えるカナダ人はたった 41% しかなく、他方 43% もの人々が影響はないと考えている」等、カナダの人々が世界の貧困についてどのような印象や考えをもっているかが統計数値と共に理解でき、同国におけるグローバル教育の将来的なあり方に非常に有益な示唆を与えてくれる。この調査研究は 2014 年に完了する予定である。

### (3) Cross Cultural Learners Center (CCLC)

Cross Cultural Learners Center (CCLC) は 1968 年にオンタリオ州ロンドン (London、トロントの南西 200km) に設立された組織である。設立に際しては、CIDA の PPP (Public Participation Program)<sup>18</sup> による資金援助を受けた。当初 12 年間は西オンタリオ大学 (University of Western Ontario) の一組織として、もっぱら国際開発についての教育機会及び情報の提供を行い、カナダにおける最初のグローバル教育センターと呼ばれた。しかしながら、70 年代半ばにオンタリオ州へのベトナム難民の大量流入が起こったことを契機に、CCLC はその役割を拡大し、難民の救済を目的としたコミュニティに対する支援を開始した。こうして現在では、ロン

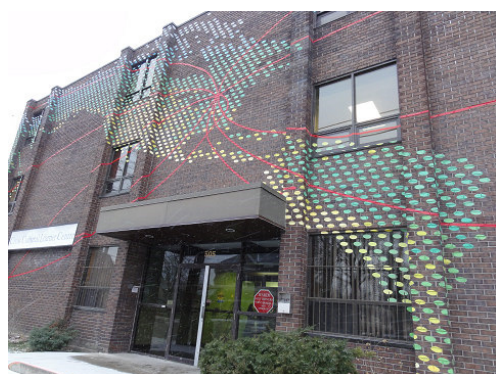
<sup>18</sup> PPP については、「3-4 カナダの援助機関の役割—国際教育とその推進」において詳細な説明があるので参照のこと。



ドンは難民受入センターとして特徴あるコミュニティとなり、CCLC はさらにこうした難民の定住を積極的に支援するまでになった。1980 年に、CCLC は非営利・慈善団体となり、新規移民のためのニーズに対して多様な支援を行うと同時に、従来からのグローバル教育分野での活動も実施している。現在、同センターには 60 名以上の多様な人種・民族的背景をもった職員がおり、30 以上もの言語に対応することが可能である。職員のほとんどは移民であり、同センターが支援の対象としているカナダへの新規移民の状況やニーズをよく理解している。

CCLC が現在行っている支援プログラムの中心は移民に対するもので、定住のためのカウンセリング及び定住促進支援、新規移民とコミュニティとの連結支援、英語能力向上支援、新規移民の子どもの学校適応支援等がある。また、難民に対する支援として、難民の受け入れセンター（Jeremiah's House）及び難民のための仮宿泊施設（Josephs' House）の運営等がある。

一方、グローバル教育に関する活動としては、資料室の運営と地域の外国人を講師として学校へ派遣する活動がある。前者の資料室には多文化主義、国際問題に関するものを中心に、先進国及びアフリカ、アジア、ラテン・アメリカなどの発展途上国を扱った約 2,000 冊に及ぶ図書と 300 以上のビデオや各種の論文や記事が所蔵されており、自由に閲覧することが可能となっている。従来は、ロンドン地区の学校の教師たちが多く訪れ、図書を閲覧したり、借りたりしていたが、近年の ICT の発達によりインターネット上で多くの情報が直ちに得られるようになり、利用者は急減している。また、従来のような CIDA からの資金援助はなくなり、新しい図書の購入などはできない厳しい状況となっている。外国人の講師派遣は、学校からの要望に応じて地域に居住する外国人移民や難民を講師として学校に派遣し、講演を行うというものである。この活動は、現在もかなりの需要がある。



（左）CCLC の正面玄関、建物の正面壁には世界地図が描かれている。

（右）センター1階の資料室。新しい図書の購入がなく、資料自体かなり古くなっている感がある

#### (4) Taking IT Global

Taking IT Global は、コンピュータのオンライン上でグローバル教育や社会的企業家精神の育成、市民参加の促進を行うことを目的に 1999 年に設立された国際 NGO である。会員数は全世界で 150,000 名以上にのぼっている。Taking IT Global の業務は、主に政府機関や民間企業などからの資金で運営する各種プロジェクト及び IT や教育分野での各種有料サービスの提供である。現在 15 名のスタッフがおり、そのうち、グローバル教育に従事しているのは 6 名であるが、それ以外に 6 名のインターンが業務の支援をしている。

Taking IT Global のグローバル教育に関する業務には大きく 2 種類がある。一つは、Taking IT Global for Educator (TIGed) と呼ばれるグローバル教育の支援のための教育関係者向けのウェブサイトの運営である。TIGed は、生徒の興味・関心やカリキュラムに合わせた学習を可能にする「バーチャル・クラスルーム (Virtual Classroom

Communities)」をはじめ、「21 世紀スキル (21<sup>st</sup> Century Skills)」養成を目指した授業案付の「学習活動データベース (Activities Database)」、生徒が学習の過程で学習成果を発表したり、自身の学習の進捗状況をポートフォリオとしてまとめることを可能にした「ブログ (Students Blogs)」や「メモ (Student Writing)」、教育者のネットワークを構築する「教育者協同センター (Educators' Collaboration Center)」など多様な機能を備えている。現在、カナダの 1,140 校及び 1,780 名の教員が TIGed にアクセスし、その情報を活用している。全世界では、136 カ国、3,200 以上の学校にのぼり、その生徒数、教員数はそれぞれ約 4 万人、約 8 千人にまで及んでいる。TIGed はマイクロソフト (Microsoft) が資金的支援を行っている。

もう一つは、教員のプロフェッショナル・デベロップメントを目的としたオンライン上の研修コース (e-course) の開発と提供である。現在、「グローバル・シティズンシップのためのプロジェクトベースの学習 (Project-Based Learning for Global Citizenship)」、「環境保全に責任をもつ教育 (Education for Environmental Stewardship)」、「教育にもっと生徒の声を (Empowering Students Voice in Education)」の 3 コースが開設され、各コースとも 5 週間で修了できる。これらコースは有料で 1 コース当たり 249 カナダドル (約 23,000 円) である。これまで全世界 142 カ国、9,500 名の教育者が受講しており、そのうちカナダの受講者はおよそ 30% を占めている<sup>19</sup>。アメリカのプリマス州立大学 (Plymouth State University, ニューハンプシャー州) では、これらコースが正規のコースと認可されているという例もある。

Taking IT Global では、現在、学校全体でもっとグローバル教育を積極的に実践していくためのプログラム (仮称: Future Friendly School Project) の構想を練っており、資金提供先を探しているところである。



Taking IT Global の運営する TIGed のウェブサイト

#### (5) カナダ飢餓財団 (Canadian Hunger Foundation: CHF)

カナダ飢餓財団は、アフリカ、アジア、ラテンアメリカの途上国における貧困削減を目的として 1961 年に設立された NGO である。本部はオタワにあるが、それ以外にも 8 つの途上国にプロジェクト事務所をもつ。現

<sup>19</sup> 途上国におけるコース受講者には奨学金が準備されており、彼らの経済的負担を減らす工夫もなされている。



在までに世界 52 カ国において各種の貧困削減プロジェクトを実施してきた。

同財団はカナダ国内でのグローバル教育の普及にも力を入れており、「グローバル教育プログラム (Global Education Program)」を立ち上げ、学校現場の児童・生徒ならびに教師、さらにカナダ市民がグローバルな視点をもったグローバル市民 (Global Citizens) になるための教育活動を 20 年以上も続けている。ここでは、グローバル教育は生徒の世界についての理解を促すだけでなく、教室における子どもたちの多様性に対して教師に適切な対応を可能にしてくれるものであり、それによって子どもや若者が異なった文化や国々に対して視野を広げ、自分たちの行動が世界にどのような影響を与えるかについて考える機会を提供してくれると謳われている。そして、こうした教育を通して初めてグローバル市民が形成されると説かれている。さらに、同財団ではグローバル市民として必要な 3 要素として、知識 (Knowledge <Head>)、思いやり (Empathy <Heart>)、行動 (Action <Hand>) をあげており、それぞれの要素強化のための支援を行っている。例えば、「知識」では、ウェブサイト上での各種情報提供、ゲスト講師の派遣、教師対象のワークショップ開催など、「思いやり」では、開発支援受益者の物語 (ウェブサイト上でビデオ提供)、学生集会及び教員集会の開催など、「行動」では各種イベントの開催などを通年実施している。

現在、スタッフ 3 名 (1 名は専属、他 2 名は兼任) がボランティアを活用しながらグローバル教育プログラムを運営している。同財団では全国 60 名強のボランティア (大学生や退職者など) に協力してもらいながらプログラム活動を継続している。彼らはリソース人材としてゲスト講師として学校現場で発表を行ったり、毎年 2 月に開催される「国際開発週間 (International Development Week)」イベント開催を手伝うなど、多様な活動を担っている。

The screenshot shows the CHF Global Education Program website. At the top, there is a banner for 'Celebrating 50 years CHF Canadian Hunger Foundation' with a 'GIVE A GIFT THAT MATTERS' button. Below the banner is a navigation menu with links: WHO WE ARE, WHAT WE DO, WHERE WE WORK, TAKE ACTION, NEWSROOM, DONATE, HOME, CONTACT, and a search bar. The main content area is titled 'Global Education Home Page' and includes a sidebar with links: GLOBAL EDUCATION HOME PAGE, ABOUT GE PROGRAM, EDUCATIONAL RESOURCES, BOOK A SPEAKER, TAKE ACTION, WHAT'S NEW, and YOUTH / STUDENTS. The main content features a video player with the text 'Free Guest Speakers Book online now!' and a 'Look deeper' section with a map of South Sudan and the text 'See more about CHF's projects in South Sudan.' Below this is a 'Welcome to CHF's Global Education Program (GEP)' section with three columns: 'FOR EDUCATORS' (It all starts with you, CHF provides free curriculum linked lessons, guest speaker, workshops and more!), 'FOR YOUTH' (Calling all youth leaders! Find out if you have what it takes to be an active global citizen.), and 'TAKE ACTION' (We have a range of campaigns, events and volunteer opportunities just waiting for you. Join Now!). A 'DOWNLOAD TEACHERS BOOKLET' button is also visible.

カナダ飢餓財団 (CHF) の「グローバル教育プログラム」のウェブサイト

なかでも、ウェブサイト上での教材提供は特に注目すべき点がある。これは学校現場でのグローバル教育実践支援を目的としており、必要な教材や資料、さらに関連情報の提供を主としている。現在、大きく9テーマ（コミュニティ、文化・ジェンダー、経済、環境、グローバル市民、グローバル教育のアプローチ、保健、貧困・飢餓・食糧確保、水）を網羅し、その種類も教室で実際に活用可能な指導案やポスター、そしてゲームやビデオ、講演等で活用可能な発表用資料、さらにイベント情報一覧など各種形態で提供されている。

指導案形式の教材は、それぞれのテーマにおいて、教師用の参照資料と生徒用の配布教材、さらに評価シートなどが一つのパッケージとなっており、かつそのテーマにおける授業実践が各州のカリキュラムの中でどのような位置付けになるかといった教育課程との関連も明らかにされており、現場教師にとってはとても使いやすいものとなっている。これら教材開発は、教員協会などと一緒にっており、これまでに300名近い教員の協力を得てきた。

**Lesson 6: Global Citizenship**

**Description**  
1x60 minute lesson

To engage students to become global citizens, students need to develop a greater understanding of the world and important global issues. Then students will be empowered to help create the type of world they want for their future. This lesson provides an introduction to the concept of global citizenship. In Part 1 of this activity, students learn about each other and a variety of topics related to global citizenship through an interactive bingo activity. In Part 2 of this activity, students discuss and reflect on the concept of global citizenship and the role they have in the world.

**Subjects**  
Geography (Grade 9), Civics (Grade 10)  
See the Curriculum Connections section for detailed links to courses and expectations.

**Materials Needed**  
[Student Worksheet \(BLM 6.1\)](#) sheet for playing bingo  
[Student Worksheet \(BLM 6.2\)](#) question sheet on global citizenship  
Note: Fair Trade prizes can be added for excitement.  
Note: French BLMs/Student Sheets can be found [here](#).

**Lesson Preparation**

1. Photocopy [BLM 6.1](#) and [BLM 6.2](#) so that each student receives a copy of both.
2. Review the Teacher Background Notes for this lesson as well as lessons 1 and 2. Also see the [Country Information](#) section and [Resources](#) section under [Extra Resources](#).

**Teaching/Learning**  
**Part 1: Global Citizen Bingo**

1. Distribute a Global Citizen Bingo card ([BLM 6.1](#)) to each student. Provide the following instructions to the students:  
  
The goal is to find someone in the class who meets the criteria for each box. You will have a limited time (i.e. 5 min) to walk around and talk to everyone in the

CHF is a non-profit organization dedicated to enabling poor rural communities in developing countries to attain sustainable livelihoods, since 1981.  
[www.chf-partners.ca](http://www.chf-partners.ca)

**Assessment**  
Each student's contributions to the class and small group discussions can be observed and recorded anecdotally by the teacher. A rubric is provided that can be used for assessment/evaluation purposes.

**Global Citizenship**  
Student's Name: \_\_\_\_\_  
Evaluator: Teacher: \_\_\_\_ Peer: \_\_\_\_ Self: \_\_\_\_

Criteria	Level 1	Level 2	Level 3	Level 4
<b>Knowledge/ Understanding</b>	Demonstrates limited knowledge and understanding of concepts.	Demonstrates some knowledge and understanding of concepts.	Demonstrates considerable knowledge and understanding of concepts.	Demonstrates thorough knowledge and understanding of concepts.
<b>Communication</b>	Expresses and organizes ideas and information with limited effectiveness.	Expresses and organizes ideas and information with some effectiveness.	Expresses and organizes ideas and information with considerable effectiveness.	Expresses and organizes ideas and information with a high degree of effectiveness.
<b>Application</b>	Predictions and connections between contexts (e.g. environmental, social, and cultural) made with limited effectiveness.	Predictions and connections between contexts (e.g. environmental, social, and cultural) made with some effectiveness.	Predictions and connections between contexts (e.g. environmental, social, and cultural) made with considerable effectiveness.	Predictions and connections between contexts (e.g. environmental, social, and cultural) made with a high degree of effectiveness.

**BLM 6.2**  
Global Citizenship

I think a global citizen is ...

Who are some global citizens who have made a significant contribution to the world?

What are some of the critical issues facing our world?

Choose one of the above issues. Explain what policies, programs or individual actions you think would contribute to improving the issue.

What is something you could do to be a more active global citizen?

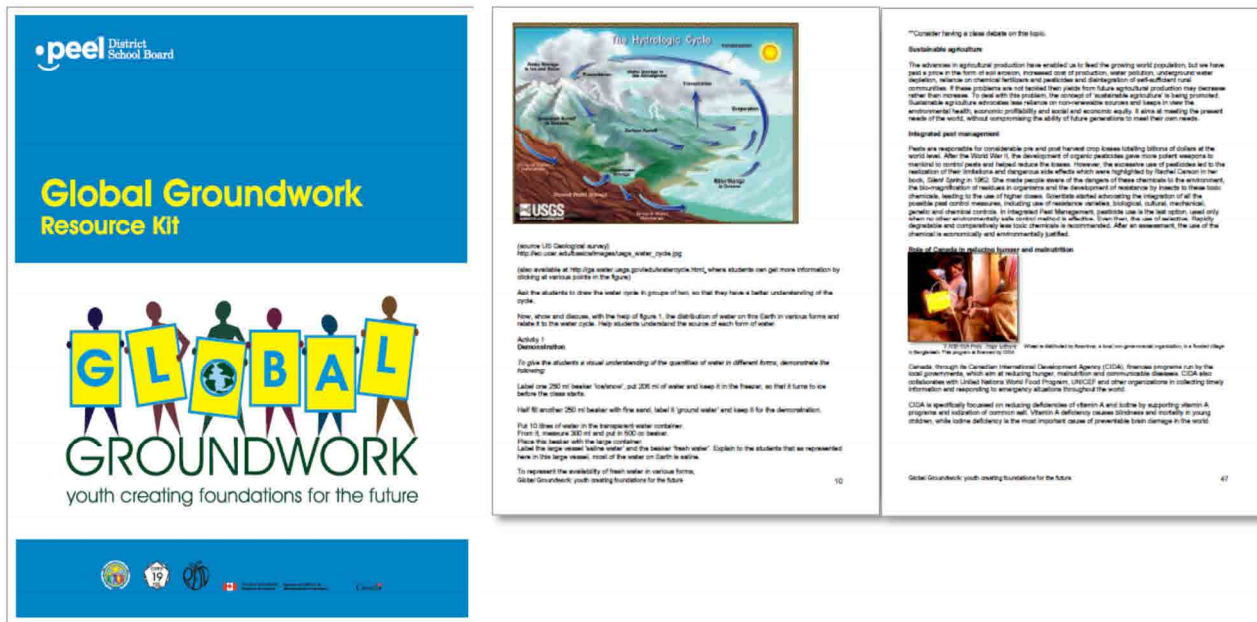
CHFのグローバル教育プログラムで提供されている指導案パッケージ  
(左上) 指導案の一部、(右上) 学習評価シート、(右下) 生徒用配布資料

コラム：地方教育委員会が独自開発したグローバル教育資料（『The Global Groundwork Resource Kit』）

正式名『The Global Groundwork Resource Kit: Global Groundwork – youth creating foundations for the future』はカナダオンタリオ州南部のピール地域（Regional Municipality of Peel）の教育委員会（District School Board）が立ち上げたグローバル・グランドワーク・プログラム（Global Groundwork Program）の成果として作成されたグローバル教育の実践のための教員用教材である。同プログラムは、同地区の児童・生徒のグローバルな思考や視野を育成するために始められたもので、プログラムの開始当初の2005年には、同地区の生徒や教師、約500人を招いて大規模会議を開催し、グローバル・マインドについての積極的な議論を展開した。その後も同地区の学校現場や地域において様々な教育活動を繰り広げ、最終的な成果物として同教材の開発を行った。教材開発においては、トロント大学オンタリオ教育研究所（Ontario Institute for Studies in Education: OISE, University of Toronto）の執筆者チームを中心に行われたが、その他、連邦政府機関であるCIDAや各種NGOの協力も得ている<sup>20</sup>。

同教材には、「水」「貧困」「保健」「教育」「食糧と農業」「カナダのグローバル・ルール」といった6つのグローバルな課題についての詳細な解説、資料と、具体的な授業案が掲載されており、学校現場の教員にとっては、それらの情報をもとにすぐに自身の教室で授業を行うことが可能である。さらに、巻末には追加的な情報源も多数掲載されており、掲載されたウェブサイト等にアクセスすればたちまち必要な情報が得られるように工夫されている。

ピール地区は、このような教材開発を積極的に行っていることからわかるように、グローバル教育を地区全体で積極的に推進しており、同地区の学校では、「社会科」や「カナダと世界」といった教科だけにとらわれず、あらゆる学習の機会を利用して、グローバル教育が行われているということである。



『The Global Groundwork Resource Kit』の表紙とその内容例

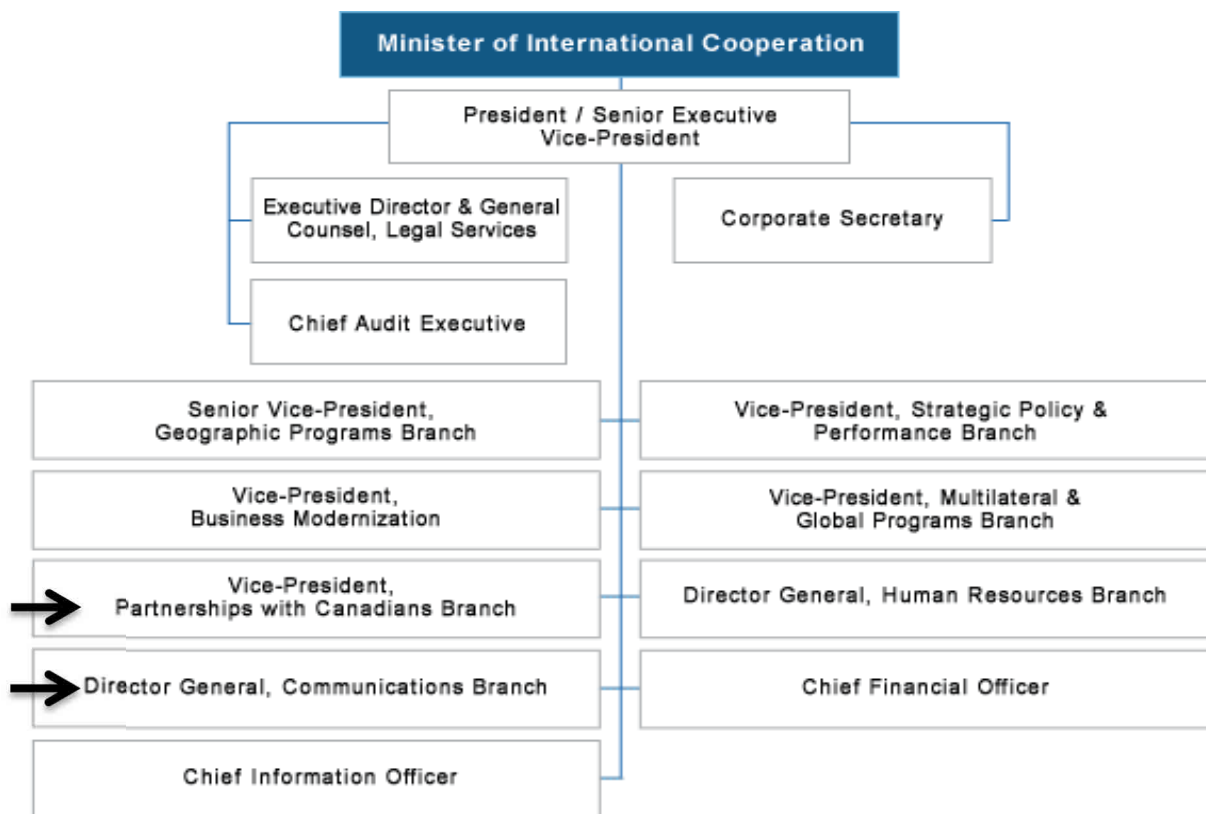
<sup>20</sup> 同プログラムに対する協力NGOとして、Canadian Physicians for Aid and Relief (CPAR)、Canadian Red Cross、Doctors Without Borders、Leaders Today and Free the Children、UNICEF Canada、World Vision Canada、などがあつた。



### 12-3 カナダの援助機関の役割 - 国際教育とその推進

カナダにおいて国際援助業務を担っているのはカナダ国際開発庁（Canadian International Development Agency: CIDA）<sup>21</sup>である。CIDA は国際開発大臣（Minister of International Cooperation）の監督下にあり、本部をケベック州ガティノー市（Gatineau）<sup>22</sup>に置き、1,800 名を超える職員を擁している。

カナダでは、対外援助を担う機関として、まず、1960 年に外務省（Department of External Affairs）内に対外援助庁（External Aid Office: EAO）が設立され、1962 年には EAO が独立した別組織となった。その後、1968 年に EAO が改組され、CIDA が誕生した。また、1970 年には議会の承認を得て、ODA に関わる研究機関である国際開発研究センター（International Development Research Center: IDRC）が設立されている。



注：図の矢印は国際教育（特にグローバル教育、ただし CIDA では近年 Public Engagement と称している）を担当している部署。実際のプログラムは Partnerships with Canadians Branch が行っており、ここには 115 名のスタッフがいる。特に、同局の中の Engaging Canadians 課がその責任主体であるが、ここには 26 名のスタッフがいる。Communication Branch は主にウェブサイトの政策や透明性を確保するための情報発信を行っており、100 名のスタッフがいる。Public Engagement 活動に関する予算は、年間 2 億 6 千万カナダドル（およそ 240 億円）でカナダ ODA 全体のおよそ 10%程度となっている。

CIDA の組織図

<sup>21</sup> CIDA は、2013 年 7 月の組織再編によって、旧外務国際貿易省（Department of Foreign Affairs and International Trade）と合併し、外務国際貿易開発省（Department of Foreign Affairs, International Trade and Development）となった。なお、本文では調査時点（2013 年 1 月）の情報をもとに記載する。

<sup>22</sup> ガティノー市はケベック州の都市であるが、首都オタワ（Ottawa、オンタリオ州）からオタワ川を渡ったところであり、オタワ市と一続きといった感がある。したがって、他の政府関係の役所や組織とも地理的に近い。

CIDA は国際教育の推進において、これまで NGO を積極的に活用してきた。具体的には、NGO への資金供与を通じて彼らの国際教育活動を支援するという形態をとってきた。この資金提供の始まりは、CIDA 内部に開発教育ユニットが設置された 1971 年にまで遡る。この年初めて NGO のアンブレラの組織である CCIC に対して開発教育推進を目的とした 4 年間のマッチング・グラントを供与している。このマッチング・グラントは後に Public Participation Program (PPP) と名称を変え、1995 年までの 25 年間にわたって続けられた。PPP は同国の NGO による積極的な開発教育活動を促しただけでなく、全国 30 以上もの学習センターの開設にも寄与するなど、カナダにおける開発教育 NGO の発展に多大な影響を与えた<sup>23</sup>。

こうしたよい面があった反面、提供資金額の拡大や活動の多様化に伴って NGO 側に NGO が本来もつべき自律性を損なうのではないかという警戒心が生じてきた。1990 年代半ばには CIDA による NGO の恣意的な利用や NGO の活動に対する制約が懸念されるようになってきた。こうして開発教育 NGO の CIDA 依存は資金面だけにとどまらず、活動面にも及び、CIDA の政策変更に対する脆弱性として現れるようになったという指摘もある<sup>24</sup>。さらに、もう一つ指摘しておくべきことは、PPP をはじめとした CIDA の NGO に対する資金供与には明確な方針や目的がなく、資金供与の規準があいまいであるという指摘が出されていたことである。長年継続されてきた PPP は 1995 年に停止されたが、それはこのことが大きな理由の一つであると考えられる。

以上のように、CIDA の国際教育への支援とその推進策は NGO への資金提供を中心に行われてきた。そこで、以下では同国の国際教育の推進に大きな役割を果たした PPP と近年の新たな対応として実施されているグローバル・クラスルーム・イニシアティブ (Global Classroom Initiatives) 及びグローバル市民プログラム (Global Citizens Program) について詳細に見ていく。

#### (1) Public Participation Program (PPP)

PPP は 1971 年に始まり、1995 年まで実施された NGO の国際教育・アドボカシー活動への資金供与スキームである。CIDA によれば、PPP の目的は、①カナダの人々の開発問題に対する意識を高めること、②国際開発への人々の関心と参加を高めること、③民間からの開発援助資金の増大を図ること、の 3 つであるとされ、予算規模は一貫して NGO に対するプログラム全体の 4%、同国 ODA 全体の 0.4% 程度で推移してきた。ただ、この予算規模は決して十分とは言えず、当時の議会では増額を求める議論があったほか、マニトバ国際協力協議会 (MCIC)、ビクトリア国際開発教育協会 (Victoria International Development Education Association: VIDEA) や CCIC から常に ODA 全体の 1% といった具体的な数値をあげて増額の要求があったようである。

さて、PPP からの資金活用によって NGO はどのような活動を行っていたのであろうか。CIDA では『Public Participation Programme's Resources Directory』(1989) を作成しており、それによれば開発教育教材の作成が中心であることがわかる。同報告書には 766 もの教材<sup>25</sup>が紹介されており、直接、教育活動に使われる教材のほか、開発教育の方法について書かれたもの、教員用手引書、文献案内、さらにはカレンダーや年次報告書、カタログに至るまで多様なものが掲載されている。また、これら教材の編集や使用目的としては、国別の問題を取り上げたものや問題領域別のもの、学校での利用を目的としたものや教育現場と NGO の連携を図るものなど様々である。これらのことから、PPP における資金供与の特徴として以下のことがあげられる。

<sup>23</sup> CCIC, "Promoting Global Citizenship: Canada Corps within a CIDA Policy Framework," 2005 の p.4-11 参照。

<sup>24</sup> 高柳彰夫『カナダの NGO : 政府との「創造的緊張」をめざし』明石書店、2001 年を参照。

<sup>25</sup> このうち、81%が印刷物、19%が視聴覚教材である。また、英語によるものが 72%、フランス語によるもの 25%、二か国語によるもの 2%、その他が 1%となっている。

- 問題についてその現状だけでなく、原因をカナダを含めた北の社会との関係を含めて述べているものへの資金供与が多い
- 南北問題、国際開発問題と環境、人権、軍事化など他のグローバルな課題と関連させながら取り上げた教材への資金供与が多い
- カナダ国内の少数民族や女性の問題をテーマにした教材にも PPP の資金供与が行われている
- 単に南北問題、国際開発問題にとどまらず、カナダの外交政策全般を扱うものにも PPP の資金供与が行われている
- 地球の友、CEDAL (Centre de documentation d'amrique latine)、CIDMAA (Centre d'information et de documentation sur le Mozambique et l'afrique australe) などのアドボカシー中心のグループのものにも PPP の資金提供が行われている
- カナダ国内でのライフスタイルや資本主義社会・産業社会のあり方、消費主義といったことを問い直すものにも PPP の資金供与が行われている

CIDA のルイス・ペリンバン副総裁 (当時) が「NGO は国内での活動についてはラディカルになる自由、反 CIDA キャンペーンを行う自由がある。ラディカルなもの、政府に対して批判的なものについても PPP 資金を供与する。それは民主主義国として当然のことである」と語ったということからも、PPP による資金はかなり幅広い NGO の開発教育推進活動に供与されてきたと言える<sup>26</sup>。

## (2) グローバル・クラスルーム・イニシアティブ (Global Classroom Initiatives : GCI)

GCI は 2002 年から始まったスキームである。グローバル化が進展する中、今後益々国境を超えた広い視野での思考が必要とされることは必至で、そのためにも若い世代にもっとグローバルな視点で物事を見つめ、考えていく姿勢を養成するために、学校現場で行われるグローバル教育 (Global Education) を、教材開発や活動を資金提供を通じて積極的に支援していこうというものである。

CIDA のウェブサイトには 2012 年 5 月時点で、本スキームの資金提供を受けた 85 のプロジェクトが掲載されており、そのうち 14 が実施中である。以下の表は、現在実施中のプロジェクトの一覧である。GCI は CIDA 内の「コミュニケーション局 (Communications Branch)」によって運営・管理されてきたが、2010 年の CIDA 組織変革によって、「カナダ人とのパートナーシップ局 (Partnerships with Canadians Branch)」の中にある「カナダ人の参加促進課 (Engaging Canadians)」が管轄することになり、また、(3)で述べるグローバル市民プログラム (Global Citizens Program) の下に置かれることとなった。

GCI によって資金提供をうけたプロジェクト (現在実施中に限る)

1	Special Editions of Canada's History and Kayak Magazines (Can \$ 152,734) <Canada's History>	2011-2012
	『カナダ人とグローバル・コミュニティ』と題した<カナダの歴史>発行の雑誌の特別版を作成する。これは、歴史を通してカナダ人がどのように国際協力に携わってきたかを明らかにするものである。	
2	Educational Resource: Interactive Novel (Can \$ 85,749) <COCD: Canadian Organization for Development Through Education>	2011-2012
	すべての子どもの基礎教育における重要なテーマである人権と民主主義について、エチオピアの女子児童の生活を題材にニカ国語の視聴覚教材を作成する。この教材はコンピュータのオンライン上でアクセスでき、またオンタリオ州カリキュラムとも密接に関連する内容である。	

<sup>26</sup> 高柳彰夫「カナダの開発協力における NGO と政府機関との関係の考察(2)」『一橋研究第 17 巻第 2 号』一橋大学、1992 年、P.91-113 から引用した。



3	Regional Forums on Feeding the World (Can \$ 85,000) <CSQ: Centrale des syndicats du Quebec>	2011-2011
	5つの地域フォーラムの開催。この目的は学校間の連携促進と NGO 及び地域の農業セクターとの協力関係の構築である。	
4	Educational Resource: Canada and the Developing World (Can \$ 125,300) <The Royal Canadian Geographical Society / Canadian Geographic Enterprises>	2010-2011
	持続可能な環境保全分野において、カナダの国際協力への貢献に焦点を当てたマルチメディアを活用したプロジェクトで、オンライン上で閲覧可能なカナダ地図上でのテーマ設定、それに関する授業プラン開発、両面使用の壁掛け地図の作成が含まれる。	
5	Educational Resource: Global Environmental Impact on the Rural Poor (Can \$ 75,000) <CHF: Canadian Hunger Foundation>	2010-2012
	6歳から18歳までの児童生徒に対して、農村における食料確保と生活の脆弱性に関係している環境的、経済的、社会的要因について理解を深めることを目的とした教材を開発する。	
6	Educational Resource: The Global Economy: Citizenship and Fair Trade (Can \$ 68,365) <South Shore Regional School Board>	2010-2012
	グローバル社会における経済、環境、文化面における相互関係についての理解を深めると同時に、消費に際しての賢い選択や適正な行動を通じて、持続可能な開発を支援するグローバル市民の育成、及びそうしたカナダの若者を推進していくための学校教材を作成する。	
7	Educational Resource: Developing Global Empathies: Learning Through Literature (Can \$ 51,600) <TC2: Critical Thinking Consortium>	2010-2011
	カナダ全国の学校の社会科及び言語学の授業で活用可能な教材を印刷及びオンライン上からのアクセスという2種類の方法で開発する。また、これら教材の活用方法については各地で実施される教員対象のプロフェッショナル・ワークショップを通じて伝える。	
8	Educational Resource: Gandhi Day Literacy Project (Can \$ 53,675) <World Literacy Canada>	2010-2012
	小学校の児童を対象に、ガンジーの生涯と彼の行った活動を通じて、社会的正義を理解させるとともに、グローバル市民としての成長を支援する。	
9	Educational Resource: Sugar with a Bitter Taste (Can \$ 87,365) <UQAM: Universite du Quebec a Montreal>	2010-2011
	「甘い砂糖」と命名されたプロジェクトは、生徒たちが栄養、子どもの権利、農村及び農業開発といったテーマについて地域社会及び国際社会において社会改革に参加することを促進することを目指した教育教材を開発し、配布することを目的として実施される。	
10	Educational Resource: Educate, Inspire, Empower (Can \$ 161,150) <Peel District School Board>	2010-2011
	グローバルな開発におけるカナダの役割についての情報をピール地区及び他の地区の生徒、教師及び教育委員会に提供することを目的とする。	
11	Educational Resource: Disability, Development and Diversity: People with Disabilities in Canada (Can \$ 52,300) <Canadian Centre on Disability Studies>	2010-2012
	カナダの若者に対して、世界中にいる障害者に接した時に貧困や人権についてどう考えたらよいかということについて議論を展開できる教材を作成する。	
12	Educational Resource: On the Road to a World of Solidarity – Phases II and III (Can \$ 58,779) <CSI: Carrefour de solidarite internationale>	2010-2011
	子どもの権利条約を参照しながら、子どもの権利というテーマのもとでのグローバル市民とはどのようなものであるかを考えさせ、さらにそういう市民となるように支援する教材を開発する。	
13	Educational Resource: Rights of Children around the World (Can \$ 56,900) <Carrefour Tiers-Monde>	2009-2011
	このプロジェクトには2つの目的があり、まず一つは、2008年に開発された教材のガイドブックを作成すること（教材は、ハイチ、ベナン、イラク、コロンビアにおける人権をテーマに報道手法を用いて開発された）、もう一つは、教員対象のワークショップを開催し、ガイドブック及び教材の紹介とともに、その活用方法について周知することである。	
14	Strengthening Global Education Training in Education Faculties (Can \$ 223,300) <UNICEF Canada>	2009-2012
	本プロジェクトは、6つの教育機関の連携の教科を図り、グローバル教育の研修を強化することを目指す。本プロジェクトには、ブリティッシュ・コロンビア州、オンタリオ州、ケベック州、プリンス・エドワード・アイランド州の4州から計6,609名の教員の参加が見込まれ、教員を対象にしたプロフェッショナル・デベロップメントの改善に大いに役立てられる。	

注：記述はプロジェクト名、資金供与額（カナダドル）、実施機関名、実施機関、内容の順である。

出典：CIDA ウェブサイトより。http://www.acdi-cida.gc.ca/cidaweb/cpo.nsf/vWebCCEn?OpenView&RestrictToCategory=2239

### (3) グローバル市民プログラム (Global Citizens Program)

2010年より開始された本プログラムは、カナダ人がグローバル市民として積極的に国際開発・国際協力に参加していくことを目指すもので、特に、①啓蒙 (Public Awareness)、②教育と知識 (Education and Knowledge)、③若者の参加 (Youth Participation)、という3つの分野に特化した活動を行うものである。

「啓蒙」については、国際開発におけるベスト・プラクティスの紹介、途上国から招聘した若いリーダーとカナダ市民との交流、開発に関する市民の理解の向上などが含まれる。「教育と知識」については、国際開発における挑戦やGCIなどで実践された結果を共有し、国際協力についての理解を深めると同時に、専門知識を習得していくことが中心となっている。

最後の「若者の参加」については、カナダ国内及び途上国の若者のインターンシップや国際交流への参加促進などが行われている。CIDAでは現在、「International School Twining Initiative (ISTI)」、「International Youth Internship Program (IYIP)」、「International Aboriginal Youth Internships Initiative (IAYI)」と呼ばれる3つの国際交流プログラムを実施している。ISTIは、カナダ国内の中学校の教室(11歳~14歳の生徒対象)と途上国の学校の教室をインターネットでつなげ、ビデオ・カンファレンス形式でお互いの情報を交換し、共有するという取り組みである。これによって教師及び生徒は、教育の質的向上を図り、国際開発に対する深い理解とグローバル市民としての役割への気づき、さらに国際的な開発課題に対して議論できる能力を高めることが期待されている。ISTIの参加希望校はCIDAに申請し、実践校として選定されると、その実施にかかる費用として最大3万カナダ・ドル(およそ240万円)が提供される<sup>27</sup>。

IYIPは、カナダ国内の若者(19歳~30歳を対象)に国際的な経験、技術及び知識を習得してもらうと同時に、国際開発に対するより深い理解の促進を目指して実施されているプログラムである。まず、CIDAは国際的な活動を行っているカナダ国内の組織の中から本プログラムに協力してくれる組織を選定し、協力組織(Canadian Partner Organizations: CPOs)としてリストを作成している。そして、IYIPを希望する若者(大卒者が条件)をCPOsにインターンとして受け入れてもらい、彼らは一定期間国際的な活動に従事しながら、国際的な知見を蓄積していく。分野としては、環境、ジェンダー、保健、統治(ガバナンス)、基礎教育、民間セクター開発など様々で、受け入れ組織も、カナダ共同協議会(Canadian Co-operative Association)、資源効率農業生産(Resource Efficient Agricultural Production: REAP)、ニューファンドランド・メモリアル大学水産海洋研究所(Fisheries and Marine Institute of Memorial University of Newfoundland)、ナイアガラ短大芸術技術学部(Niagara College of Applied Arts and Technology)などNGOや大学研究所など多様である。これらの組織に受け入れられた若者は、南米、アジア、アフリカなどの途上国に派遣され、当該組織が行う活動に参加することとなる。CIDAでは、インターンの受け入れ組織に対して、彼らの旅費、生活費、管理費用等に当たる費用の支援として、インターン一人当たりに対して最大1万2千カナダ・ドル(およそ100万円)を提供している。

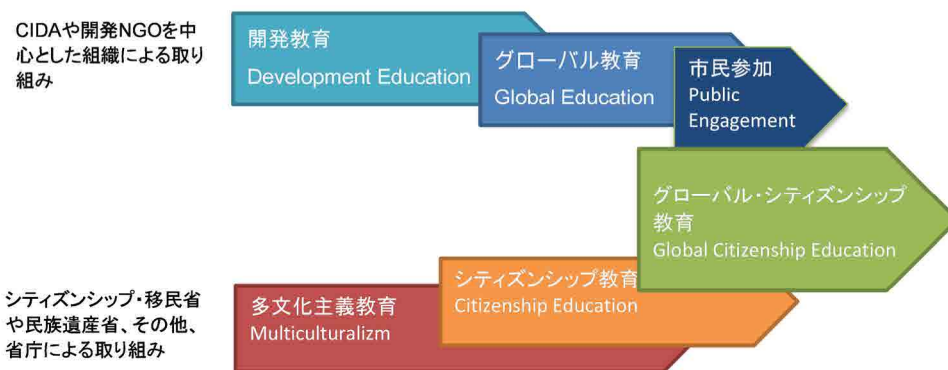
IAYIは、内容的にはIYIPと類似しているが、インターンの対象がカナダ先住民の若者(18歳~35歳)に限られているところに特徴がある。カナダ先住民もIYIPに参加することができるが、彼らにとって大学卒という条件は厳しい。そこで、彼らの応募を促進するために高卒を条件として基準を少し下げている。IYIPと同様に、カナダ先住民の若者に国際的な経験、技術及び知識を習得してもらうと共に、国際開発に対するより深い理解の促進を目指して実施されている。本プログラムにおけるインターンは通常、最初の2ヶ月はカナ

<sup>27</sup> 2013年1月現在においては、試行期間であり、全国で7校を対象として行っている。将来的にはこの活動は全国的に展開していきたい意向をもっている。ISTIは、英国でDfID及びブリティッシュ・カウンシルが行うGlobal School Partnerships (GSP)やConnecting Classroomと酷似している。CIDAによれば、これらの機関から情報を得て、彼らの先行経験を踏まえつつ、その欠点を改善し、またカナダの学校に最適のプログラム内容に作り変えているということであった。

ダ国内、その後4ヶ月は途上国での活動に従事することとなっている。受け入れ組織はCIDA側で選定しており、現在、8つの組織<sup>28</sup>がその受け入れ先となっている。

#### 12-4 近年の新しい動き

これまで見てきたように、カナダの国際教育では時代とともにその焦点が徐々に変化してきており、同時に国際教育を扱う組織の内部事情やそれを取り巻く社会的環境などによって、様々な名称が使われてきた。この名称の変化を大雑把に見れば、以下のように表すことができる。



カナダにおける国際教育の名称の変遷とその時系列的関係

上図から分かるように、国際教育には大きく2つの流れが見られる。一つは開発教育→グローバル教育→市民参加であり、もう一つは多文化主義教育→シティズンシップ教育である。OISEによれば、「開発教育」という名称は1990年代を最後にほとんど使われることはなくなり、代わって現在は「グローバル教育」という呼称が広く使われるようになってきているということである。ただし、先述のようにCIDAや各州の国際協力協会では「市民参加」という名称がグローバル教育を意味する名称として使われるようになってきている。これは、組織における資金調達(Funding)の問題と深くかかわっているということであった<sup>29</sup>。しかしながら、近年、グローバル・シティズンシップ教育(Global Citizenship Education)という呼称が用いられるようになってきている。これは、従来の2つの国際教育の流れが融合されたものということが言えるが、特に、学校教育について見た場合、オンタリオ州のように正規の学校カリキュラムの中にシティズンシップ(市民科)に関する内容が導入され必須になったことと、学校カリキュラム全体としてグローバルなもの見方、広い視野をもつことを要求しているといったことが合わさって、グローバル・シティズンシップ教育という名称が登場したものと考えられる。

各州におけるグローバル・シティズンシップ教育の取り組みを見てみると、多様な実践が展開されていることがわかる。ただ、全体的な傾向としては、グローバル・シティズンシップ教育を実践する場として特別の

<sup>28</sup> 現在、指定されている8組織とは、Canadian World Youth, Canadian Urban Institute, Canadian Institute of Planners, Aide international à l'enfance (AMIE), Atlantic Council for International Cooperation, Interagency Coalition on AIDS and Development, Victoria International Development Education Association, Comité de Solidarité/Trois-Rivières である。

<sup>29</sup> OISEによれば、国際教育の新しいプログラムやプロジェクトを立ち上げる場合、従来の用語を用いていたのでは、新鮮さがなく、承認されることが難しい。そこで、新しい名称を付けることで、プログラムやプロジェクトが従来のものとは全く異なった新しいものであることが強調でき、承認され、予算が付きやすくなるということである。CIDAにおいて「市民参加」という用語が使われたために、そこからの予算に多くを頼っている国際協力協会などもそれに同調しているという説明であった。

教科を設定している州は少なく、多くが「社会科」の教科枠組みの中でこうした内容を取り扱っている。東部4州における社会科共通カリキュラム (Foundation for the Atlantic Canada Social Studies Curriculum) は、社会科を個人的で、学問的で、多様で、グローバルな見方から、生活に影響する諸事象を検証する多学問的なレンズを提供するものと規定し、文化的に多様な世界が直面する課題について公正で、持続可能で、平和な解決を希求するグローバルな見方を培うことを目標の一つにあげている。また、西部諸州の社会科共通カリキュラム (Foundation Document for the Development of the Common Curriculum Framework for the Social Studies) では、内容編成の6基準の一つに「グローバルな結びつき」を掲げ、環境、国際援助、相互依存、国内事象とグローバルな事象との関係の理解などが目指されている<sup>30</sup>。一方、先住民とその地域についての学習に焦点を当てた特別な教科設定をしている州として、ブリティッシュ・コロンビア州(「ブリティッシュ・コロンビア州の先住民研究」)、ユーコン準州(「ユーコン先住民研究」)、ノースウエスト準州及びヌナブト準州(共に「北方地域研究」)があり、また、カナダについての学習に特化した教科設定をしている州として、ニューファンドランド・ラブラドール州、ノバスコシア州、オンタリオ州(「カナダ学」あるいは「カナダ史」、及び「カナダ地理」)がある。さらに、「地球社会」や「世界学」、「グローバル・スタディーズ」といった地球規模の学習を目指した教科を設定している州もあり、前二者はニューファンドランド・ラブラドール州、後者はノバスコシア州となっている。

ここでオンタリオ州について追記しておく、同州では1993年のカリキュラムではグローバルな見方を一つの核とする共通カリキュラム (The Common Curriculum) を設定していたが、2008年の改訂によって教科カリキュラム制に戻った。現在、グローバル・シティズンシップ教育は初等教育段階では社会科の教科枠組みの中で行われており、「伝統とシティズンシップ」と「カナダと世界の結びつき」が内容領域とされている。他方、第9~10学年では、先に触れたように「カナダと世界の学習 (Canadian and World Issues)」という教科が設定され、その中でグローバル・シティズンシップ教育が積極的に行われている。

## 12-5 学校現場での国際教育の実践

### 12-5-1 トロント大学オンタリオ教育研究所付属校 (Dr. Eric Jackman Institute of Child Study Laboratory School)

同校はトロント大学オンタリオ教育研究所の付属校で、トロント市内に立地する小規模校である。もとは1925年にロックフェラー財団 (Norman Spellman Rockefeller Foundation) の寄付によってセント・ジョージ学校 (St. George's School for Child Study) として設立され、2歳~4歳の8名の子どもたちの教育から始まった。同校の教育方針は、アメリカの哲学者・教育者であるデューイ (John Dewey) の思想が大きく影響しており、現在でも同校の基本的な教育方針として、個人の探究 (inquiry)、統合 (integrity)、社会的責任感 (a sense of social responsibility)、学びの認識 (an appreciation of learning) を養成していくことが掲げられている。



トロント大学オンタリオ  
教育研究所付属校の正面

同校は付属校として子どもの学びをよりよいものにするために様々な教授・学習に関する研究プロジェクト

<sup>30</sup> 森田真樹「カナダにおけるグローバル教育の展開」『グローバル教育の理論と実践』教育開発研究所、2007年、P.47-48、及び岸田由美「カナダ - 『多文化』と『社会』をつなぐ教育」『世界のシティズンシップ教育』東信堂、2007年、P.114-119を参照。

が実施されており、一般的には年間 15 ほどのプロジェクトが常に進行している。これらの財源は、オンタリオ大学やオンタリオ州教育省などから提供されている。

#### 学校の概要

- |          |  |
|----------|--|
| • 学校種別：  | トロント大学オンタリオ教育研究所附属校（就学前教育～初等教育 <sup>31</sup> ） |
| • 生徒数：   | 220 名（男子 110 名、女子 110 名） <sup>32</sup>         |
| • 教職員数：  | 24 名（うち、22 名が教員。ただし、教職員以外に 45 名程度のインターンがいる）    |
| • 立地：    | トロント市内   |
| • 学校予算：  | N/A  |
| • 生徒の学力： | 比較的高い  |

同校の大学付属校としての存在目的は大きく 3 つある。一つは、教員養成である。トロント大学教育学部の修士課程には 90 名近い学生が在籍しており、彼らに教育実習（每学期 6 週間）を行う機会を提供するということである。二つ目はトロント大学はじめ他大学における教育研究の場の提供である。そして三つ目として、同校での教育実践モデルや成果を普及するということである。各種国際会議や視察といった機会を有効に活用しながら、同校での新しい教育実践モデルを一般の学校へ広めていくというものである。したがって、同校は一般の公立校とは異なり、オンタリオ州教育省のカリキュラム等の既成は受けることはなく、基本的に同校独自で指導方針や内容等を決定することができる。

先にも触れたように、同校はデューイの教育思想を基本に教育活動を行っており、教育実践において確固とした理念と信念がある。すなわち、個々の子どもの発達は大きく異なり、それ故に子どもの発達やニーズに合った教育が必要で、そのためには常に子どもの要求に注目し、耳を傾けなければならない。特に、子どもが身体的、精神的、心理的、認知的に「安全 (secure)」と感じられることは非常に重要で、そうした学習環境を提供することが求められる。また、教育において「探究 (inquiry)」は基本であるという立場から子どもの問いを大変重視した教育活動が行われている。こうした状況の下、同校の教育アプローチは大きな特徴が見られる。一例をあげると、批判的読者 (critical reader) になるための力を育成、協働学習 (collaborative learning) の推進、メタ認知アプローチ (meta-cognitive approach) の採用、総合的な探究 (integrated inquiry) の重視、双方向的なディスコース (discourse) などである。当然のことながら、一般の学校で見られるような、テストの点数で子どもの学力を評価するようなことは行われていない。評価は通常、教師による個々の子どもの日々の継続的な学習過程の観察によって行われている。

こうした教育活動を円滑に実践していくためには、教員の高い力量が求められる。同校では日本の授業研究 (レッスン・スタディ) を導入したり、すべての教員に対して研究課題をもたせるなど、力量形成 (professional development) を積極的に実践しているのも大きな特徴である。

それでは、こうした教授・学習環境にある同校ではどのように国際教育が行われているのであろうか。同校では、生徒が環境に対する理解を深められるように、様々な機会を利用して環境教育を行っている。調査団

<sup>31</sup> 保育クラス (Nursery School)、幼児クラス (Junior and Senior Kindergarten)、及び第 1 学年から第 6 学年までを含む。

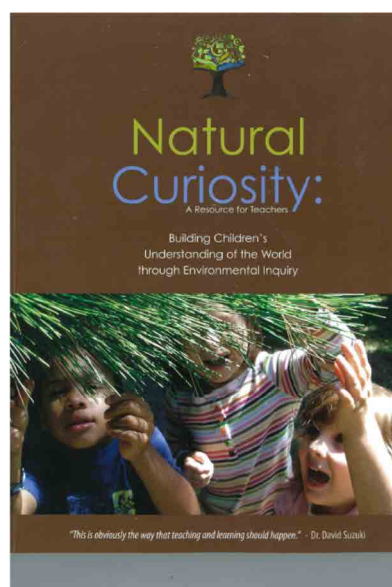
<sup>32</sup> うち、少数民族に含まれる児童は 44.3%。また、経済的な支援を必要としている家庭出身の児童は 12%、特別な学習支援を必要とする児童 15%となっている。

(同校ホームページ、[http://www.oise.utoronto.ca/ics/Laboratory\\_School/About\\_the\\_School/ICS\\_At\\_A\\_Glance.html](http://www.oise.utoronto.ca/ics/Laboratory_School/About_the_School/ICS_At_A_Glance.html) 参照)



が同校を訪問した際、「鳥」というテーマで授業を行っていた4年生のクラスを観察した。この授業では、鳥について各自がその身体的特徴や、習慣、食物などを調べ、そこから環境との関係を見出していくことで、すべての生徒が生物にとっての環境の重要性を理解し、そのためには各自がどのような行動をとらなければいけないかを考えていくことを狙っていた。そして、最終的にはその考えをレポートに纏め、小冊子として編集することが目標であった。教室には11名の生徒がそれぞれの調べ作業をしている<sup>33</sup>。ある子どもはコンピュータに向かって鳥（フクロウ）についての情報を検索している。別の子どもは机に向かって一心不乱に鳥の絵を描いている。また別の子どもは教師の助けを借りながら、鳥の餌について思いを巡らせている。さらに、別のテーブルでは子どもたちが鳥について意見交換をしていた。一見、それぞれの子どもがばらばらの作業をしており、全くまとまりがないようであるが、これこそが個々の子どものニーズと学習ペースに合わせた理想的な学習であると考えられているのである。調査団が授業観察しているうちにも、一人の男子生徒がレポートをほぼ纏め終えた。その内容は小学校4年生にしては、素晴らしいもので、その子どもが一生懸命調べ、その過程で発見したことが見事な言葉（単語）と絵で表現されていた。

こうした環境教育の取り組みは、一つの教育モデルとして『Natural Curiosity: A Resource for Teachers』という本に纏められている。副校長によれば、この本は、各教師の実践をそれぞれの物語としてまとめたものであり、実践がこうした目に見える形になることは実践者である同校教師には大きな動機付けとなるばかりか、同校の取り組みが他の学校や地域と共有できる機会を提供してくれるツールにもなっているということであった。



小学校4年生の「鳥」をテーマにした授業風景（左）と  
同校により出版された環境教育の実践経験を纏めた『Natural Curiosity: A Resource for Teachers』の表紙

こうした環境教育以外にも、同校では子どもが将来的にグローバルな視野をもち、グローバルな社会でよりよく生きていけるための力を養うことが必要であるとの意識の共有が教師の中にある。したがって、すべての教師はあらゆる機会を通じて、子どもたちのグローバルな視野形成を目指している。このような状況の中

<sup>33</sup> 同校では、一クラスは22名であるが、教科によってクラスを2つに分け、少人数で授業を行うことがある。その場合、それぞれのグループは異なる教科の学習に取り組むことが普通である。



で重要な役割を果たしているのが、同校の図書館の存在であり、図書館の運営・管理の責任を負う優秀な司書の存在である。司書は常に教師との情報共有を重視し、毎週の職員会議の場などを利用して、新刊書や新しい図書の紹介を行ったり、また反対に教師からの要望を吸い上げたりしている。そして、常に図書館には外国の物語や絵本などが揃えられ、教師や子どもたちがいつでも利用できるようにしている。司書によれば、最近、非常に面白いテーマで「読書の時間」に子どもたちと討論したということであった。「なぜ、多くの国のお話で継母は子どもにきつく当たるのか？」を考えるとというものである。子どもたちは真剣に考え、それぞれが思考を膨らませながら、いろいろな意見を共有していたということであった。



同校の図書館に所蔵されている図書（左）と司書（右）

#### 12-5-2 ブルーヴェイル中等学校（Bluevale Collegiate Institute: BCI）

同校はトロント市内から西へ約 70km のウォータールー（Waterloo）地区の中等学校である。この地区はオンタリオ州の中でも多くの人口を抱える地域の一つであり、同地区にある就学前教育（87 校）、特別学校（1 校）<sup>34</sup>はウォータールー教育委員会（Waterloo District School Board）が管轄している。

同校は 1972 年に設立された学校で、「君は誰であるかではなく、君は何であるか（Non Quis, Sed Quid）<sup>35</sup>」をモットーに、父兄や地域住民の積極的な支援を得ながら、生徒に対してよりよい学習環境を提供すると共に、教職員への力量形成にも力を入れている。同校の教職員の中にはそれぞれのプロフェッショナル分野における賞を受けた者もかなりいる。また、同校はオンタリオ州が促進するエコ・スクール（Eco Schools）<sup>36</sup>に認定されており、環境教育の分野では中心的な役割を演じている。



ブルーヴェイル中等学校の正面

<sup>34</sup> 就学前教育と初等学校は統合されていることが多く、多くの学校において年少組（Junior Kindergarten: JK）から第 8 学年までの教育が行われている。この数は 87 校である。一方、就学前教育を含まない初等学校はたった 1 校である。さらに、第 7～8 学年の初等教育 2 年間だけを行う学校が 13 校ある。したがって、同地区の学校数は 102 校である（2013 年 1 月現在）。(<http://www.wrdsb.ca/schools> を参照)

<sup>35</sup> 英語では、「It's not who you are, but what you are」と訳されている。

<sup>36</sup> 「エコ・スクール（Eco Schools）」とは、オンタリオ州における環境教育実践とその認定を行うプログラムであり、就学前教育から第 12 学年までを対象にした全州的な教育活動である。同プログラムは、2002 年に州内の 7 つの教育委員会、

## 学校の概要

- 学校種別： 公立中等学校（第 9～12 学年）
- 生徒数： 1,260 名
- 教職員数： 98 名
- 立地： ウォータールー地区（トロント市より西に 70km）
- 学校予算： N/A
- 生徒の学力： 比較的高い

同校では、ウォータールー教育委員会の支援のもと、Future Forum Project (FFP)と呼ばれる画期的な学習プロジェクトが進行中である。この地域は IT 企業などが比較的多く立地しており、学校側に対して優秀な人材の提供が強く求められている。そこで、数年前に地区のビジネス界に 21 世紀に求められる人材についてのアンケートを配布し、それを分析した結果、「テクノロジーを効果的に、また生産的に活用できる」、「創造性や革新性を表現できる」、「他人とのコミュニケーションが上手で協調的」といった人材像が浮かび上がってきた。そこで、同地区の中等学校が協力して、そうした人材育成に取り組むことになった。FFP は「教師間の協働を重視し、カリキュラムの中のいくつかの教科を統合した学習活動を推進していこうというシステム・ワイドなイニシアティブであり、また革命である」と定義されている。ここではテクノロジーを備えた学習環境の中で、学習は探究アプローチや問題解決アプローチを用いて進められる。こうして、生徒は伝統的な教師による直接的指導から徐々に開放され、最終的には自らが主体的に学習に関わるようになっていく。

FFP は一見、国際教育とは関係がないように見えるが、上記の定義に示されているように、「自らが主体的に学習に関わる」という点で、まさに国際教育が求めている学習態度や姿勢、あるいはスキルに大いに関係しているものであると言える。現地調査中に視察した第 10 学年のクラスでは、FFP を実施していく上で、「英語」、「職業教育」、「市民科」を統合していた。この統合授業では、これまで生徒はパソコンを用いて様々な学習プロジェクトを展開してきており、一例をあげると、「Book Club」と呼ばれる読んだ本の感想などをお互いに共有し、それに対して意見を出し合うものや「Civic Mirror」と呼ばれる生徒が政治家として議会に出席して、そこでお互いにあるテーマに対して議論を戦わせる模擬授業など、非常に革新的な学習活動が行われている。

FFP を実施している地区の学校では、これまでの FFP 実践について簡単なアセスメントを行っており、その結果によれば、FFP で学習している生徒は全体的によく学んでいることが統計的に明らかになっている。現在、同地区の中等学



FFP を実践している第 10 学年のクラス

ヨーク大学 (York University)、トロント地域保全局 (the Toronto and Region Conservation Authority) などの関係者が協力して立ち上げたもので、オンタリオ州の学校カリキュラムの範囲内で、環境教育の学校での実践を積極的に進めていこうというものである。環境についての知識 (Ecological literacy)、ゴミの削減 (Waste minimization)、エネルギーの節約 (Energy conservation)、学校の緑化 (School ground greening) という 4 つのコンポーネントをバランスをもって推進していくことが求められており、オンタリオ州の全学校がこうした取り組みを積極的に行うことが求められている。

校 16 校のうち、15 校が FFP を実践しているが、それぞれの学校内においては、まだ FFP 実践教師は 2~3 名程度でほんの一握りの教師による実践である。今後、もっと多くの教師が FFP に携わることが期待されている。

## 12-6 まとめ

これまで見てきたように、カナダは国際教育が盛んに行われている国であると言える。この大きな理由の一つに、CIDA により積極的な NGO への支援が行われてきたことがあげられる。1971 年に始まり、1995 年までの 25 年間にわたって実施された PPP は同国の国際教育の隆盛に大きな影響を与えた。この支援によって、全国各地に開発教育センターが設立され、地域や学校現場における国際教育を支えてきたのである。また、新しい開発 NGO が次々に組織され、彼らによる各種の教材開発も国際教育の実践において大いに役立てられた。

近年、CIDA からの開発教育 NGO に対する直接的な資金援助はかなり縮小されたとはいうものの、グローバル市民プログラム (GCP) に代表されるように、学校やカナダの若者を新たな対象とした国際教育活動が積極的に行われている。そして、こうした新たなプログラムを通じて、カナダの開発 NGO は CIDA との新たな関係を構築してきていると言える。

このようなカナダの国際教育、特に CIDA や NGO 主導のグローバル教育においては、イギリスの影響が多分に見られる。例えば、CIDA の PPP は、英国国際開発省 (DfID) の開発問題認識基金 (Development Awareness Fund: DAF) や小規模助成基金 (Mini-Grant Fund: MGF) に類似しており、DfID が近年、国際教育のための資金支援を対 NGO から対学校にシフトしたということも、CIDA が PPP から GCP へ移行したと酷似している。さらに、具体的なプログラムとして ISTI は、DfID のグローバル・スクール・パートナーシップ (Global School Partnerships: GSP) 及びブリティッシュ・カウンシルのコネクティング・クラスルーム (Connecting Classroom) と内容的にほぼ同じである。現地調査において CIDA を訪問した際にも、「ISTI は、DfID やブリティッシュ・カウンシルと経験を共有し、彼らの実践の長所・短所を十分に考慮した上で、カナダの学校の文脈に合うように再構成している」というコメントを得た。このことからカナダの国際教育は、イギリスにおける国際教育の動向を常に注視しながら、活動を推進していると言える。

他方、カナダは、先住民はもちろん、多くの移民を受け入れてきたという歴史的な背景からも多文化主義社会となっている。例えば、トロントやオタワの街を歩いていると、ここがどこであるのか分からなくなるほど多様な人種、民族的背景をもった人々に出会う。こうした社会ではややもすれば国民国家としての形成が難しくなりがちである。そこで、同国ではこれまで多文化主義教育を重視し、異なった人々への理解と共感を強化してきたが、近年、カナダ人としての共通のアイデンティティを形成することを目的としたシティズンシップ教育が積極的に推進されるようになってきた。例えば、シティズンシップ・移民省及び民族遺産省では、カナダ人としてのアイデンティティ形成のための各種プログラムの開催やイベントの開催を行うなど、連邦政府自らが積極的な姿勢を示している。

しかしながら、最近になって「グローバル・シティズンシップ (Global Citizenship)」というスローガンが唱えられるようになり、その動きに伴って、グローバル・シティズンシップ教育 (Global Citizenship Education) という新たな教育実践が登場してきた。これはグローバル化の進む 21 世紀の社会を担うのに必要な人材 (グローバル・シティズン) を育成することを目標としたものであり、これまでのように知識を覚えるだけの教育ではなく、批判的思考、問題解決能力、メタ学習能力といった新しい社会が必要としているスキルを習得

させようというものである。

カナダの学校カリキュラムを見てみると、こうしたスキルが十分に考慮されており、内容的にも国際教育に関するものが非常に多く含まれていると言える。現地調査で対象となったオンタリオ州では、「グローバル教育」という教科はないものの、初等教育段階において「社会科 (Social Studies)」(第 1~6 学年) 及び「カナダの歴史と地理 (History and Geography)」(第 7~8 学年)、中等教育段階では「カナダ・世界学 (Canadian and World Studies)」(第 9~10 学年) という教科設定がなされ、その中でグローバル・シティズンシップ教育が積極的に行われるように配慮されている。また、その他の教科においてもグローバルな視点が取り入れられ、教科横断的にグローバル・シティズンシップ教育が行われていることが見てとれる。

さらにここで言及しておきたいこととして評価に関することがある。近年、カナダにおいても他国と同様、教育実践のアカウンタビリティが求められており、試験などを通じて、生徒の学力を把握することが広く行われている。オンタリオ州の例では、第 3 学年及び第 6 学年における読解、作文、算数の試験、第 9 学年の数学試験、第 10 学年の中等学校識字試験 (OSSLT)、15 歳の生徒を対象とした PCAP など、世界でも有数の試験大国となっていると言っても過言ではない。しかし、カナダの特徴的な点は、その評価が決して「点数主義」に陥ることのないように注意深く行われているということである。これは教育政策としてはもちろんであるが、教育文化として学校や家庭においてもかなり広く認識されているようである。このことは、カナダが教育水準を高く維持できていることの一つの要因であろう。グローバル・シティズンシップ教育というのは、人間の生き方、そこにおける人生の価値、そして世界観に関する教育であり、その成果は客観的に点数で測れるものではない。したがって、カナダ社会における評価についてのこのような認識は、グローバル・シティズンシップ教育を推進していく上での大きな「見えない力」となっているのではないだろうか。

(調査チーム)